

令和 6 年 度

事業報告

日本赤十字社滋賀県支部

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

はじめに	1
I 支部事業・一般会計決算概要	2
1 評議員会並びに監査等の実施	2
(1) 評議員会の開催	2
(2) 監査委員による監査の実施	2
(3) 監査委員による赤十字施設への視察	2
(4) 日本赤十字社理事会・代議員会等への出席	3
(5) 支部名誉職員名簿	4
2 全国赤十字大会	5
3 会議・職員研修会の開催	5
(1) 会議の開催	5
(2) 地区分区赤十字事務打ち合わせ会	6
(3) 職員研修会の開催	7
4 会員増強運動の推進と実績	7
(1) 会員増強運動の推進	7
(2) 令和6年度活動資金募集実績	7
(3) 活動資金募集にかかる主な取り組みと実績	9
(4) 企業・団体等とのパートナーシップ構築の推進	10
(5) 赤十字会員数	11
(6) 有功章等受章件数	11
5 災害救護活動	11
(1) 災害救援物資及び弔慰金の配分状況	11
(2) 義援金、海外救援金の受付状況	12
(3) 救護資機材の整備	12
(4) 訓練及び研修	12
(5) 救護員の登録状況	14
(6) 救護資材整備状況及び救援物資備蓄状況	14
6 赤十字救急法等の普及	15
(1) 救急法	15
(2) 健康生活支援講習	15
(3) 幼児安全法	15
(4) 水上安全法	15
(5) 指導員の養成	15
(6) 講習指導員の研修	15
(7) 各種講習指導員数	16
(8) 防災教育の普及	16
(9) 滋賀県安全法指導員協議会	16

7	赤十字奉仕団	17
(1)	設団状況	17
(2)	地域赤十字奉仕団の活動	18
(3)	青年赤十字奉仕団の活動	22
(4)	滋賀県防災支援赤十字奉仕団の活動	23
(5)	滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団の活動	25
(6)	個人ボランティア	26
8	青少年赤十字	27
(1)	加盟校の状況	27
(2)	青少年赤十字指導者協議会郡市支部長会の開催	28
(3)	本社及びブロック主催の講習会、研修会開催状況	28
(4)	支部主催のトレーニングセンター開催状況	28
(5)	その他の会議・行事等	29
(6)	青少年赤十字メンバー・加盟校応援プロジェクト事業	30
(7)	青少年赤十字機関紙「JRC しが」の発行	30
9	看護師の教育	30
10	国際活動	31
(1)	「NHK 海外たすけあい」キャンペーンの実施	31
(2)	令和6年度第4ブロック合同国際人道法普及研修への参加	31
11	赤十字思想の普及	31
(1)	本社作成の広報資材の配布	31
(2)	支部作成の広報資材の配布	32
(3)	主な広報活動	32
(4)	赤十字活動紹介パネルの作製	33
(5)	赤十字体験バスの開催	33
(6)	「ACTION！防災・減災」の実施	34
(7)	滋賀県赤十字血液センターとのイベント共同企画	34
12	有功会	35
(1)	会員の数（個人・法人）	35
(2)	事業内容	35
13	一般会計決算概要	37
II	医療事業・医療施設特別会計決算概要	38
1	大津赤十字病院	38
2	大津赤十字志賀病院	40
3	長浜赤十字病院	43
III	血液事業概要	47
	滋賀県赤十字血液センター	47

は じ め に

令和6年元日に甚大な被害が発生した能登半島地震では、日本赤十字社は発災当初から総力を挙げて対応してまいりました。本県支部も、発災の翌日から3月まで、継続して被災地に救護班やこころのケアチームなどを派遣し、全国から派遣された仲間とともに活動を行いました。

また、令和6年度も、全国各地で、地震が頻発し、夏季を中心に台風や豪雨による被害が発生するとともに、2月に入ってから、各地で山林火災が発生する中、日本赤十字社は、義援金の募集のほか、医療救護活動や救援物資の提供など被災者に寄り添った活動を行ってまいりました。

本県においても、7月には、米原市で豪雨により土砂崩れが発生したため、速やかに救護班を派遣するとともに、地元の伊吹赤十字奉仕団では炊き出しなどでご尽力いただいたところであります。

このような状況の下、令和6年度において、災害救護にかかる訓練や研修、救急法等の講習の普及、赤十字奉仕団への支援、医療施設の運営、血液製剤の供給など支部の活動は、種々の課題はあるものの、県民の皆様ならびに関係者の皆様のご理解とご協力により、概ね順調に推進することができました。

一方、本年3月には、南海トラフ巨大地震の新たな被害想定が公表されました。今後30年以内の発生確率は80%程度で、太平洋沿岸を中心に広い地域で激しい揺れと大津波により、甚大な被害が発生するとされています。

支部といたしましては、南海トラフ巨大地震をはじめ、いつどこで起こるか分からない災害に備えるため、地域奉仕団や防災支援奉仕団と連携しながら、より一層、防災・減災の取り組みを進めるとともに、発災時には、迅速・的確な活動ができるよう、救護体制の充実・強化を図ってまいります。

併せて、本県支部は明治28年に創立され、130周年を迎えます。130周年を契機として、今後「救うことをつづける」活動を着実に推進できるよう、支部が一丸となって、関係者の皆様のさらなる結束力の向上や、赤十字の活動へのより多くの賛同者の確保に向けた取り組みを進めてまいります。

赤十字の活動を財政面で支えていただいている赤十字会員の皆様、赤十字ボランティアの皆様、地区分区の関係者の皆様、並びに県民の皆様には、日頃からの力強いご支援に心から感謝申し上げます。

ここに、令和6年度の日本赤十字社滋賀県支部事業を報告いたしますとともに、今後とも、皆様からの温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年6月

日本赤十字社滋賀県支部

I 支部事業・一般会計決算概要

1 評議員会並びに監査等の実施

(1) 評議員会の開催

開催月	会場	議案等
(第1回) 6月17日(月)	滋賀県農業教育 情報センター	第1号議案 令和5年度事業報告及び歳入歳出決算について (監査委員監査報告書を添付)
(第2回) 2月10日(月)	滋賀県農業教育 情報センター	第1号議案 令和7年度事業計画について 第2号議案 令和7年度歳入歳出予算について 第3号議案 役員の選出について

(2) 監査委員による監査の実施

令和5年度の業務の管理及び執行並びに会計について監査委員による監査を実施しました。

(日本赤十字社が会計の監査を委託している監査法人の監査概要を添付(滋賀県赤十字血液センターは除く))

監査対象施設

日本赤十字社滋賀県支部事務局

大津赤十字病院

大津赤十字志賀病院

長浜赤十字病院

滋賀県赤十字血液センター(滋賀県赤十字血液センターは、業務監査のみ実施)

監査実施日

6月11日(火)

監査実施場所

日本赤十字社滋賀県支部会議室

(3) 監査委員による赤十字施設への視察

監査委員は、上記監査とは別に、業務状況をより適切に把握するため、年に一度管内赤十字施設に対する視察を実施しています。令和6年度は9月25日(水)に長浜赤十字病院を視察しました。

(4) 日本赤十字社理事会・代議員会等への出席

名 称	開催日	会 場	理事・ 代議員名	内 容
日本赤十字社 理事会	6月28日 (金)	東京都・ 新霞が関 ビル	坂口理事	1 付議事項 (1) 第104回代議員会に付議する事項 について ア 役員の選出 イ 令和5年度事業報告及び収支 決算の承認 2 報告事項 (1) 国際人道法と日本赤十字社につ いて
日本赤十字社 第104回代議員会	6月28日 (金)	東京都・ 新霞が関 ビル	坂口代議員 中村代議員	1 第1号議案 役員選出について 2 第2号議案 令和5年度事業報告及び収支決算の 承認について 3 報告事項 戦時に人間性を保つ世界共通の約束 事～ジュネーブ諸条約75周年を記念 して
日本赤十字社 理事会	11月22日 (金)	日本赤十 字社本社	坂口理事	1 報告事項 (1) 令和6年度上半期事業報告につ いて (2) 令和6年度上半期における災害 救護活動について (3) 2025年大阪・関西万博への赤十 字の出展について (4) 令和6年度NHK海外たすけあい について (5) 社長が決定した補正予算について
日本赤十字社 理事会	3月19日 (水)	東京都・ 新霞が関 ビル	坂口理事	1 付議事項 (1) 不動産の処分について ア 松山赤十字病院 (2) 第105回代議員会に付議する事項 について ア 役員の選出 イ 令和7年度事業計画 ウ 令和7年度収支予算 2 常任理事の互選 3 業務執行理事の指名 4 報告事項 (1) 最近の国際活動と病院ERU展開 訓練の実施について

日本赤十字社 第105回代議員会	3月19日 (水)	東京都・ 新霞が関 ビル	坂口代議員 児島代議員	1 第1号議案 役員の選出について 2 第2号議案 令和7年度事業計画について 3 第3号議案 令和7年度収支予算について 4 報告事項 (1) 私がたどった阪神・淡路大震災から現在、未来にいたる災害医療 (2) 2025年大阪・関西万博への赤十字の出展について
---------------------	--------------	--------------------	----------------	---

(5) 支部名誉職員名簿

令和7年3月31日現在

役 職	氏 名	備 考
支 部 長	三日月 大 造	滋賀県知事
副 支 部 長	江 島 宏 治	滋賀県副知事
〃	小 椋 正 清	滋賀県市長会長・東近江市長
〃	伊 藤 定 勉	滋賀県町村会長・豊郷町長
本 社 代 議 員	坂 口 康 一	近江鍛工株式会社代表取締役会長（本社理事）
〃	児 島 多 鶴 子	近江ユニキャリア販売株式会社代表取締役社長
支部監査委員	北 村 嘉 英	草津電機株式会社代表取締役会長
〃	藤 本 武 司	元滋賀県代表監査委員
評 議 員	松 井 繁 夫	大 津 市 地 区 選 出
〃	竹 内 俊 彦	〃
〃	八 軒 艶 子	〃
〃	和 田 裕 行	彦 根 市 地 区 選 出
〃	磯 谷 直 一	〃
〃	浅 見 宣 義	長 浜 市 地 区 選 出
〃	千 種 恵 美 子	〃
〃	小 西 理 子	近江八幡市地区 選出
〃	高 木 富 砂 子	〃
〃	高 橋 川 涉	草 津 市 地 区 選 出
〃	清 水 和 廣	〃
〃	川 那 辺 守 雄	守 山 市 地 区 選 出
〃	岸 年 江	〃
〃	竹 村 健 子	栗 東 市 地 区 選 出
〃	坂 口 栄 子	〃
〃	岩 永 裕 貴	甲 賀 市 地 区 選 出
〃	林 善 彦	〃
〃	櫻 本 直 樹	野 洲 市 地 区 選 出
〃	松 浦 加 代 子	湖 南 市 地 区 選 出
〃	今 城 克 啓	高 島 市 地 区 選 出
〃	小 椋 正 清	東 近 江 市 地 区 選 出
〃	大 塚 正 清	〃
〃	角 田 航 也	米 原 市 地 区 選 出
〃	堀 江 和 博	東 近 江 地 区 選 出
〃	有 村 国 知	湖 東 地 区 選 出
〃	伊 藤 定 勉	〃
〃	山 田 忠 利	支 部 長 選 出
〃	高 木 富 砂 子	〃
〃	森 川 茂 樹	〃
〃	大 道 良 夫	〃

滋賀県健康医療福祉部長
赤十字奉仕団滋賀県支部委員会委員長
滋賀県青少年赤十字指導者協議会長
日本赤十字社滋賀県支部有功会長

(敬称略)

2 全国赤十字大会

名誉総裁皇后陛下、名誉副総裁各宮妃殿下のご臨席を賜り、5月15日に、東京都渋谷区の明治神宮会館において、来賓、赤十字会員の代表など約1,600人の出席のもと全国赤十字大会が開催されました。

式典では、国家斉唱、社長あいさつに続き、名誉総裁から赤十字事業の推進に尽力された会員の代表13人に有功章の授与が行われました。

滋賀県支部からは、支部役員1人、有功会員5人、有功章社員1人、奉仕団関係者4人、地区会員代表4人、施設職員2人、支部職員4人の計21人が出席し、彦根市在住の1人が有功章受章者代表として、名誉総裁皇后陛下から有功章を受章されました。

3 会議・職員研修会の開催

(1) 会議の開催

ア 地区分区及び施設職員を対象とした会議

名 称	開催日	会 場	対象及び出席者数	内 容
赤十字事務担当主任者会議	4月26日 (金)	滋賀県農業教育情報センター	日赤事務担当主任者	1 赤十字のしくみと活動 2 新型コロナウイルス感染症への対応について 3 令和6年度事業計画及び歳入歳出予算の概要 4 地区・分区における業務について 5 その他
赤十字施設業務連絡会議	5月29日 (水)	日本赤十字社滋賀県支部会議室	支部事務局長、施設事務部長（血液センターは事業部長）及び支部・各施設の人事総務担当課長等 計15人	1 本年度支部監査委員による監査 2 職員研修 (1) 滋賀県支部主催研修 (2) 第4ブロック主催研修 (3) 本社主催研修 (4) その他 3 大阪・関西万博開催にかかる職員協力 4 寄付金付自動販売機の設置及び寄付実績 5 令和6年能登半島地震救護にかかる経費精算 6 令和6年度災害救護訓練予定 7 令和6年度赤十字救急法等講習の開催予定 8 今後の予定等 評議員会の開催 支部有功会総会の開催
赤十字事務担当課長(幹事)会議	12月10日 (火)	日本赤十字社滋賀県支部会議室	担当課長等14人 事務局 5人	協議事項 1 令和6年度の主な取り組みについて 2 令和6年度活動資金募集進展状況について 3 令和7年度主要事業計画(案)について その他 1 評議員の任期満了に伴う諸手続きについて 2 令和7年度地域赤十字奉仕団主要事業計画(案)について

赤十字施設 業務連絡会議	1月8日 (水)	日本赤十字社 滋賀県支部会 議室	支部事務局長、 施設事務部長 (血液センターは 事業部長)、及 び支部・各施設 の人事総務担当 課長等 計15人	1 令和7年度滋賀県支部・赤十字施設の監査の実施 2 職員研修 (1) 滋賀県支部主催研修 (2) 第4ブロック主催研修 (3) 本社主催研修 (4)その他 3 大阪・関西万博開催にかかる職員協力 4 指定事業社資を活用した救護資機材整備計画 5 令和6年能登半島地震災害にかかる災害救助費の補償請求 6 その他 ①寄付金付自動販売機の設置状況 ②全国赤十字大会への施設長等の参加 ③令和7年度災害救護訓練予定 ④金融経済教育推進機構(J-FLEC)に関する周知 7 今後の予定 評議員会の開催
-----------------	-------------	------------------------	--	--

(2) 地区分区赤十字事務打ち合わせ会

支部職員が地区分区を訪問し、赤十字活動にかかる情報共有を行うとともに、地区分区交付金の管理、救援物資の在庫状況等の確認を行いました。

訪問日	地区分区	出席者数
10月29日(火)	栗東市地区	地区担当者 1人 支部職員 2人
	甲賀市地区	地区担当者 1人 支部職員 2人
10月30日(水)	長浜市地区	地区担当者 2人 支部職員 2人
	米原市地区	地区担当者 1人 支部職員 2人
11月11日(月)	湖東地区	地区担当者 1人 支部職員 2人
	彦根市地区	地区担当者 2人 支部職員 2人

(3) 職員研修会の開催

名 称	開催日	会 場	対象および出席者数	研修内容
令和 6 年度 支部・施設10年目 中堅職員研修 (第 1 回)	10月 1 日 (火)		支部・施設の勤続10年 を迎える職員 24人 講 師 2 人 事務局 3 人	1 第一線で働く中堅職員に求められる立場と役割を再確認する。
令和 6 年度 支部・施設10年目 中堅職員研修 (第 2 回)	10月 8 日 (火)	ピアザ淡海 (滋賀県立 県民交流セ ンター)	支部・施設の勤続10年 を迎える職員 29人 講 師 2 人 事務局 2 人	2 役割を果たすために必要なコミュニケーション能力を身につける。
令和 6 年度 支部・施設10年目 中堅職員研修 (第 3 回)	11月29日 (金)		支部・施設の勤続10年 を迎える職員 31人 講 師 2 人 事務局 3 人	3 マンネリを打破し、組織へ積極的に働きかけをしていく意識を向上させる。

4 会員増強運動の推進と実績

(1) 会員増強運動の推進

5 月を「赤十字会員増強運動月間」として、ひとりでも多くの方々に赤十字の思想・活動を理解していただくとともに、赤十字会員への加入、高額活動資金や法人活動資金の拡充強化に努めました。

本年度会員増強運動に使用した資料は次のとおりです。

ア 赤十字会員増強運動実施要項	150部
イ 小冊子（リーフレット）	8,000部
ウ ポスター	9,050部
エ 赤十字活動チラシ	520,000部
オ 赤十字会員募集のてびき	2,800部
カ 広報用DVD	25部
キ 活動資金領収書	180,200部
ク 法人に対する活動資金協力依頼状	19,749部
ケ 個人情報の取扱いに関する啓発パンフレット	1,000部
コ 法人向けチラシ①	8,000部
サ 法人向けチラシ②	7,900部
シ 法人向けチラシ③	430部

(2) 令和 6 年度活動資金募集実績

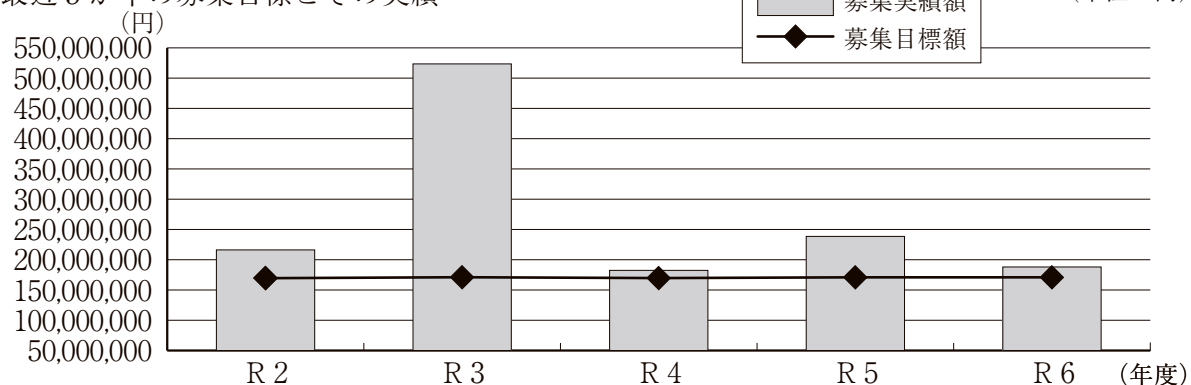
各市町の標準世帯数の40%以上を「500円会員」、28%以上を「1,000円会員」として募集することを目標として、地区分区の協力の下、県民の皆様にご支援とご協力を依頼しました。

実績は次表のとおりです。

令和 6 年度活動資金募集実績

地区区分名			募集目標額 (A) (円)	地区区分・ 支部実績額 (B) (円)	支部による募集実績額内訳				実績額合計 G=B+C+D+E+F (円)	達成率 G／A (%)	
					赤十字しが (C) (円)	個人DM (D) (円)	口座振替 (E) (円)	クレジットカード (F) (円)			
地区区分	市地区	大 津 市	33,888,000	8,397,585	824,162	6,329,152	767,000	2,509,200	18,827,099	55.6%	
		彦 根 市	10,577,000	4,513,261	218,000	2,683,390	212,000	581,000	8,207,651	77.6%	
		長 浜 市	14,547,000	7,228,825	20,000	1,163,319	206,000	143,000	8,761,144	60.2%	
		近江八幡市	10,042,000	5,500,170	297,000	490,185	290,000	146,000	6,723,355	67.0%	
		草 津 市	6,691,000	3,972,917	98,000	2,645,900	438,000	754,400	7,909,217	118.2%	
		守 山 市	8,707,000	6,822,415	135,000	880,893	34,000	206,000	8,078,308	92.8%	
		栗 東 市	6,799,000	3,115,756	53,000	2,741,000	133,000	251,000	6,293,756	92.6%	
		甲 賀 市	11,617,500	8,724,467	85,000	731,000	66,000	101,000	9,707,467	83.6%	
		野 洲 市	5,840,500	3,022,816	53,000	282,000	70,000	24,000	3,451,816	59.1%	
		湖 南 市	5,959,000	3,273,486	25,000	232,821	51,000	145,000	3,727,307	62.5%	
		高 島 市	6,046,500	4,055,698	365,000	379,423	14,000	108,000	4,922,121	81.4%	
		東 近 江 市	13,966,500	12,800,354	160,000	537,000	119,000	164,000	13,780,354	98.7%	
		米 原 市	5,511,000	5,429,850	28,000	672,975	48,000	37,000	6,215,825	112.8%	
		市 地 区 計	140,192,000	76,857,600	2,361,162	19,769,058	2,448,000	5,169,600	106,605,420	76.0%	
	郡地区	東近江	日 野 町	2,712,000	2,293,949	30,000	128,000	0	17,777	2,469,726	91.1%
			竜 王 町	1,656,000	895,000	5,000	50,000	0	0	950,000	57.4%
			東近江計	4,368,000	3,188,949	35,000	178,000	0	17,777	3,419,726	78.3%
		湖東	愛 荘 町	2,489,000	2,202,875	35,000	83,000	43,000	26,000	2,389,875	96.0%
			豊 郷 町	951,500	951,568	30,000	285,000	48,000	0	1,314,568	138.2%
			甲 良 町	975,500	874,500	50,000	10,500	0	0	935,000	95.8%
			多 賀 町	1,164,000	1,032,900	0	16,000	0	0	1,048,900	90.1%
			湖 東 計	5,580,000	5,061,843	115,000	394,500	91,000	26,000	5,688,343	101.9%
		郡 地 区 計	9,948,000	8,250,792	150,000	572,500	91,000	43,777	9,108,069	91.6%	
		地 区 分 区 計	150,140,000	85,108,392	2,511,162	20,341,558	2,539,000	5,213,377	115,713,489	77.1%	
支 部		21,695,000	72,245,447	15,000	53,000	0	3,000	72,316,447	333.3%		
支部・地区区分計		171,835,000	157,353,839	2,526,162	20,394,558	2,539,000	5,216,377	188,029,936	109.4%		
個人住民税寄付金 控除対象救援金		0	0	0	0	0	0	0	0.0%		
病 院 使 途 指 定 寄 付 金		0	7,072,000	0	0	0	0	7,072,000	0.0%		
合 計		171,835,000	164,425,839	2,526,162	20,394,558	2,539,000	5,216,377	195,101,936	113.5%		

最近5か年の募集目標とその実績



(単位：円)

凡 例	年 度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
◆	募 集 目 標 額	169,634,000	171,204,000	169,805,000	171,053,000	171,835,000
	(うち口座振替目標額)	(2,637,000)	(2,593,000)	(2,628,000)	(2,655,000)	(2,671,000)
	(うちクレジット目標額)	(997,000)	(2,611,000)	(1,177,000)	(2,398,000)	(3,164,000)
■	募 集 実 績 額	216,238,531	523,520,133	182,432,147	238,538,644	188,029,936

(上記募集実績額は個人住民税寄付金控除対象救援金及び管内赤十字病院等への使途指定寄付金を除く)

(3) 活動資金募集にかかる主な取り組みと実績

ア 個人向け活動資金

過去に支部へ活動資金の協力があった個人をはじめ、本社から提供のあった義援金・救援金・海外たすけあい協力者を対象にダイレクトメールによる活動資金募集を行いました。

	送付件数	応 諾 数	応 諾 率	協力金額
11月発送	7,497件	853件	11.4%	20,394,558円

イ 法人向け活動資金

実績

	予 算 額 (円)	実 績 額 (円)
指定寄付金	4,560,000	4,560,000
損金算入限度額特例扱寄付金	12,440,000	30,353,192
合 計	17,000,000	34,913,192

※指定寄付金として募集した額は、救護物品等の整備費に充当しました。

① ダイレクトメール (DM) による募集

年3回(7月・11月・2月)発送のダイレクトメールにより、法人に対して活動資金の募集を行いました。

	発送数 (件)	応諾数 (件)	応諾率 (%)	協力金額 (円)
7月 発送分	7,498	386	5.1	6,863,627
11月 発送分	7,730	135	1.7	2,705,819
2月 発送分	323	22	6.8	1,820,000
合 計	15,551	543	3.5	11,389,446

【発送条件】

7月発送分：支部保有法人データ全件

帝国データバンクから購入した売上高5千万円以上の法人

11月発送分：7月にDMを発送した法人のうち、未応諾の法人

2月発送分：一昨年、昨年に協力いただいた法人のうち、未応諾の法人

② 地区分区と協働による募集

【募集方法】

- ・支部職員、地区分区事務職員、奉仕団員による企業訪問
- ・地区からダイレクトメールを送付

	依頼件数	応諾数	応諾率	協力金額
17 地区分区	1,806件	1,358件	75.2%	7,025,814円

③ 法人データの購入

法人社資の増収を目的として、新規法人データの購入、既存法人データの更新を行いました。

- ・新規法人 641件
- ・更新法人 214件

④ 法人会員向けステッカーの作成・配布

法人会員向けステッカーを作成し、活動資金として2,000円以上のご寄付があった法人を対象に配布しました。

(4) 企業・団体等とのパートナーシップ構築の推進

ア 募金箱による協力

設置数 22か所

金額 273,002円

イ 寄付金つき自動販売機による協力

設置数 25か所

金額 1,842,100円

ウ 赤十字支援マークの使用

2法人

- ① 株式会社近江潜建 ホームページへの掲載
- ② 神港精機株式会社滋賀守山工場 寄付金付き自動販売機への掲示

エ 経済団体と連携した活動

滋賀県中小企業団体中央会、滋賀県中小企業青年中央会が主催する、お仕事体験・学習イベント「しがわーくフェスタ2024」へブースを出展し、AED体験コーナー、無線体験、防災グッズの展示等を行いました。

オ 滋賀県税理士協同組合の各支部へ訪問

滋賀県税理士協同組合の各支部（近江八幡支部、草津支部、彦根支部、水口支部）へ訪問し、赤十字活動の説明と活動資金への協力について依頼しました。

(5) 赤十字会員数

会員数（年額2,000円以上協力者）

	会員数	増減（前年度比）
個 人（人）	4,422	-237
法 人（法人）	2,059	-29
合 計（人・法人）	6,481	-266

令和7年3月31日現在

(6) 有功章等受章件数

	個 人	法 人	合 計
紺 綬 褒 章	4	0	4
厚生労働大臣感謝状	4	0	4
社 長 感 謝 状	15	14	29
金 色 有 功 章	9	7	16
銀 色 有 功 章	14	9	23
支 部 長 表 彰 状	16	20	36
特 別 社 員 章	176	－	176

令和7年3月31日現在

5 災害救護活動

日本赤十字社は、災害対策基本法により「指定公共機関」として位置づけられるとともに、災害救助法により国及び都道府県に対する救助への協力義務が規定されています。

滋賀県支部は、滋賀県と「災害救助法による救助等に関する委託契約書」を締結しており、避難所での生活環境の整備及び被災者に対するこころのケア、医療、助産及び死体の処理に関する事項を実施することとなっています。

令和6年度は、令和6年1月に発生した能登半島地震に対する教訓を活かした各種訓練・研修に、赤十字医療施設の救護班等を派遣し、能力の向上に努めました。

(1) 災害救援物資及び弔慰金の配分状況

地震、火災、風水害などの自然災害、人為災害時に全壊、全焼、流出の世帯に対し、支部備蓄の救援物資の配布や死亡者に対して弔慰金を配分しています。

令和6年度は次のとおり救援物資及び弔慰金の配分を行いました。

ア 災害救援物資

物 資 名	数 量	物 資 名	数 量
毛 布	54枚	大判タオル	49本
緊急セット	18個	タオル	31本

イ 弔慰金

4件：死者4人、配分額 40,000円

(2) 義援金、海外救援金の受付状況

義 援 金 名	金 額 (円)	
	本年度分	累 計
令和6年7月25日からの大雨災害義援金	730,486	同左
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	7,028,442	同左
令和6年沖縄県北部豪雨災害義援金	423,905	同左
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	1,528,715	同左
令和6年能登半島地震災害義援金	41,321,813	191,337,333
計	51,033,361	201,048,881

救 援 金 名	金 額 (円)	
	本年度分	累 計
2024年台湾東部沖地震救援金	2,388,633	同左
レバノン人道危機救援金	224,395	同左
バングラデシュ南部避難民救援金	1,802	4,388
アフガニスタン人道危機救援金	11,313	499,184
イスラエル・ガザ人道危機救援金	262,729	676,133
ウクライナ人道危機救援金	602,222	22,806,809
中東人道危機救援金	145	2,264
計	3,491,239	26,601,806

(3) 救護資機材の整備

災害対応能力強化のための資機材として、県内医療施設に非常食、非常用トイレ、投光器、衛星携帯電話、デジタル簡易無線等を整備しました。

また、災害救護対応に要した医薬品にかかる費用の助成を行いました。

(4) 訓練及び研修

ア 滋賀県総合防災訓練

10月20日に、彦根港を主会場に実施されました。滋賀県支部では、千松の郷を会場とした現場救護所設置運営訓練に参加し、また、同月24日に開催された災害ボランティアセンター非常態勢移行・機動運営訓練に参加しました。

【参加者数】

救護班要員等（赤十字職員）17人

（滋賀県支部2人、大津赤十字病院8人、長浜赤十字病院7人）

防災支援赤十字奉仕団員3人

イ 日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練

6月15日、和歌山県消防学校を主会場に大規模災害が発生した際、近畿2府4県の赤十字支部・施設が連携し、救護活動が展開できるよう各種救護訓練等を実施しました。

【参加者数】

救護班要員等（赤十字職員）45人

（滋賀県支部3人、大津赤十字病院14人、大津赤十字志賀病院7人、長浜赤十字病院21人）

大津赤十字看護専門学校学生31人

防災支援赤十字奉仕団員9人

ウ 大津市総合防災訓練

11月10日、大津市小野学区を主会場とした訓練が開催され、滋賀県支部では現場救護所設置運営訓練及び災害ボランティアセンター現地サテライト開設・運営訓練に参加しました。

【参加者数】

救護班要員等20人

（滋賀県支部2人、大津赤十字病院9人、大津赤十字志賀病院9人）

防災支援赤十字奉仕団員5人

エ 救護員としての赤十字看護師研修（合同災害救護演習）

11月8日、大津赤十字病院において災害時の救護活動に必要なトリアージ等の技術の習得や、組織における自己の役割の認識、指示・命令系統の理解等を目的に合同災害演習を実施しました。

【参加者数】

看護師42人

（大津赤十字病院24人、大津赤十字志賀病院1人、長浜赤十字病院17人）

その他職員13人

（大津赤十字病院5人、大津赤十字志賀病院1人、長浜赤十字病院5人、滋賀県支部2人）

オ 救護班主事研修

10月31日、滋賀県危機管理センターにおいて、救護班主事として必要な知識と救護資機材の取扱の習得を目的として、研修会を実施しました。

【参加者数】

主事20人

（滋賀県支部1人、大津赤十字病院13人、大津赤十字志賀病院1人、長浜赤十字病院5人）

その他職員9人

（滋賀県支部3人、大津赤十字病院2人、大津赤十字志賀病院1人、長浜赤十字病院3人）

カ こころのケア研修及びこころのケア指導者養成研修

① こころのケア研修

被災者及び救援者である救護員へのこころのケアの重要性について理解を深めるとともに、救護員自身のこころのケアに関する対処方法の取得を目的として実施しました。

	大津赤十字病院	長浜赤十字病院
実 施 日	6月17日、18日	8月17日
修了者人数	31人	28人
指導スタッフ	5人	8人

② こころのケア指導者養成研修（10月9日～10日）

災害時におけるこころのケア活動は、救護活動における重要な柱のひとつです。本社ではその要員を養成する「こころのケア指導者養成研修」を実施し、令和6年度は、長浜赤十字病院から1人が参加しました。

(5) 救護員の登録状況

常備救護班は医師を班長として1人、看護師長1人、看護師2人、主事1人、自動車操作要員1人の計6人をもって1班とし、大津赤十字病院に4個班、大津赤十字志賀病院に1個班、長浜赤十字病院に3個班を常備編成しています。

(6) 救護資材整備状況及び救援物資備蓄状況

ア 救護資機材整備状況

(3月31日現在)

品 名	保 有 数	品 名	保 有 数
災 害 救 援 車	3	業 務 用 無 線 基 地 局	2
救 護 所 用 大 型 テ ン ト	2	車 載 型 業 務 用 無 線 機	15
救 護 所 用 テ ン ト 空 調 装 置	2	携 帯 型 業 務 用 無 線 機	25
天 幕 (3.6m × 5.4m)	6	衛 星 携 帯 電 話	3
エアーテント (大・小)	2	病 院 前 除 染 設 備 一 式	2
ワ ン タ ッ チ テ ン ト	7	医 療 セ ッ ト 一 式	8
担 架	24	移 動 式 炊 飯 器	2
担 架 架 台	5	救 護 員 用 雨 具	60
折 り 畳 み 寝 台	31	救 護 員 用 防 寒 具	60
発 電 機	4	救 護 員 用 寝 袋	18

イ 災害救援物資の備蓄状況

品 名	保 有 数	品 名	保 有 数
毛 布	9,376	大 判 タ オ ル	492
緊 急 セ ッ ト	1,055	タ オ ル	329
安 眠 セ ッ ト	365	タ オ ル ケ ッ ト	1,189

6 赤十字救急法等の普及

(1) 救急法

日常生活などで不慮の事故にあった際、医師などに引き渡すまでの応急手当や救命手当を赤十字奉仕団、学校、企業等を対象に実施しました。

区 分	実施回数（回）	受講人数（人）
一 般 普 及 講 習（基礎講習）	19	421
一 般 普 及 講 習（救急員養成）	13	319
短 期 講 習	156	4,893

(2) 健康生活支援講習

健やかな高齢期を過ごすための健康維持・増進の思想と、高齢者の自立をめざした介護予防の方法を指導するもので、赤十字奉仕団、一般住民を対象に行いました。

区 分	実施回数（回）	受講人数（人）
一 般 普 及 講 習（支援員養成）	4	94
短 期 講 習	17	987

(3) 幼児安全法

子どもを社会の財産として大切に育てるため、子どもに起こりやすい事故に対する応急手当の方法と事故防止、子どもの病気と看病のしかたを中心として子育て支援関係者、保育園・幼稚園の職員、福祉施設の職員等を対象に行いました。

区 分	実施回数（回）	受講人数（人）
一 般 普 及 講 習（支援員養成）	4	81
短 期 講 習	31	447

(4) 水上安全法

安全に水と親しむための、事故防止や泳ぎの基本と自己保全、水の事故に遭った際の救助や手当の方法などの知識と技術を習得するもので、学校関係職員を対象に実施しました。

区 分	実施回数（回）	受講人数（人）
一 般 普 及 講 習（救助員Ⅰ養成）	1	9
一 般 普 及 講 習（救助員Ⅱ養成）	1	7
短 期 講 習	16	505

(5) 指導員の養成

11月20日から24日の5日間、赤十字幼児安全法指導員養成講習会を京都府支部と合同で開催し、11人の指導員を養成しました。

(6) 講習指導員の研修

滋賀県支部に所属する救急法、水上安全法の各指導員に対し技能維持を目的とした指

導員研修を実施しました。

対 象 指 導 員	実施回数（回）	受講人数（人）
救 急 法・水 上 安 全 法	1	48
健 康 生 活 支 援 講 習	2	24
幼 児 安 全 法	2	39

(7) 各種講習指導員数

講 習 種 別	ボランティア（人）	職員（人）	総 数（人）
救 急 法	106	59	165
水 上 安 全 法	21	1	22
健康生活支援講習	14	18	32
幼 児 安 全 法	19	34	53

(8) 防災教育の普及

近年の防災・減災に対する関心の高まりをうけ、地震や風水害などの自然災害に対しての正しい知識や災害時の備えなどを学ぶ防災教育を、学校、地域、赤十字奉仕団等に対して実施しました。

対 象	実施回数（回）	受講者数（人）
自 治 会 等	12	505
赤 十 字 奉 仕 団	17	1,388
学 校 関 係	10	835
企 業	0	0
そ の 他	3	265
合 計	42	2,993

(9) 滋賀県安全法指導員協議会

救急法・水上安全法の指導員資格を有する者をもって会員とし、講習普及や人命尊重と苦痛の軽減に寄与することを目的に結成されており、支部の講習計画に基づき、県内の講習普及に努めています。

会員数は、3月31日時点で救急法165人、水上安全法22人の計179人（重複者8人）

名 称	期日等	出席者（人）	内 容
第1回役員会	4月30日	10	【報告事項】 1 令和5年度事業報告並びに収支決算について 【協議事項】 1 令和6年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について

定期総会	6月8日	56	1 令和5年度事業報告並びに収支決算 2 令和6年度事業計画(案)並びに収支予算(案) 3 会則の改正
第2回役員会	2月26日	8	【報告事項】 1 令和6年度事業実施状況について 【協議事項】 1 令和7年度事業計画(案)について 2 会則の改正について

7 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、市町の地域毎につくられる地域奉仕団と社会人や学生などによって組織された青年奉仕団、また特殊技能者が集まった特殊奉仕団があります。

赤十字奉仕団は、赤十字思想の普及や災害救護など、赤十字事業の推進にあたりとともに、地域の状況に応じた福祉活動など幅広い活動を展開しています。

(1) 設団状況

ア 地域奉仕団

地域別	団数(団)	分団または班数 (団または班)	団員数(人)		
			男	女	計
市	42	463	975	9,077	10,052
町	7	73	128	1,138	1,266
計	49	536	1,103	10,215	11,318

イ 青年奉仕団

名 称	団員数(人)		
	男	女	計
滋賀県青年赤十字奉仕団はなまる	3	3	6
大津赤十字看護専門学校学生奉仕団めだか	7	75	82
計	10	78	88

ウ 特殊奉仕団

名 称	団員数(人)		
	男	女	計
滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団	46	14	60
滋賀県防災支援赤十字奉仕団	39	17	56
計	85	31	116

(2) 地域赤十字奉仕団の活動

ア 赤十字奉仕団滋賀県支部委員会

開催日	出席者数	会 場	内 容
4月10日	県支部委員14人 指導講師 4人	滋賀県支部 会議室	1 新役員の選出 2 令和5年度事業報告及び会計収支決算について 3 令和6年度事業計画及び会計収支予算について
11月8日	県支部委員16人 指導講師 4人	滋賀県支部 会議室	1 令和6年度赤十字奉仕団員研修・復興応援 旅行の反省について 2 令和7年度赤十字奉仕団員研修旅行について 3 報告事項 ・奉仕団広報誌の配布について ・清掃用具（軍手）の配布について
1月17日	県支部委員14人 指導講師 4人	滋賀県支部 会議室	1 令和6年度事業の実施状況について 2 令和7年度事業計画（案）について 3 報告事項 ・ハートラちゃんカフェ実施報告について 4 赤十字奉仕団員研修旅行下見の実施について

イ 赤十字奉仕団滋賀県支部常任委員会

開催日	出席者数	会 場	内 容
6月18日	常任委員 6人 指導講師 5人	滋賀県支部 会議室	1 令和6年度赤十字奉仕団委員長会議・研修 会の振り返り 2 令和7年度赤十字奉仕団員研修旅行企画仕 様書について 3 報告事項 ・「事例からみる奉仕団活動の手引き2024」 の配布について
12月4日	常任委員 7人 指導講師 3人	滋賀県支部 会議室	1 令和6年度事業の実施状況について 2 令和7年度事業計画（案）について 3 赤十字奉仕団員研修旅行下見について
3月13日	常任委員 8人 指導講師 1人	滋賀県支部 会議室	1 令和7年度基本目標について 2 令和7年度赤十字奉仕団委員長会議・研修 会について 3 赤十字奉仕団斡旋物資について 4 報告事項 ・令和7年度防災・減災啓発活動推進交付 金交付要項について ・奉仕団広報誌の配布について ・赤十字奉仕団親睦研修旅行の下見につい て

ウ 赤十字奉仕団委員長会議・研修会

開催日	参加者数	会 場	内 容
4月18日 ・19日	奉仕団委員長 47人 指導講師5人	コラボしが21	1 赤十字と奉仕団活動 2 楽しく奉仕団活動を進めるために 3 「赤十字この一年」DVD鑑賞 4 委員長としての思いとこれからの取り組み 5 グループワーク テーマ：「委員長としての思いとこれからの 取り組み」 6 グループワーク発表・まとめ 7 避難生活支援講習 8 重点目標事業活動報告 (1) 野洲市中主赤十字奉仕団 (2) 栗東市赤十字奉仕団 (3) 東近江市能登川赤十字奉仕団 9 日本赤十字社の組織と活動資金の募集について 10 赤十字奉仕団事務取扱について 11 赤十字奉仕団員研修・復興応援旅行日程調整

エ 赤十字奉仕団中央委員会

開催日	出席者	会 場	内 容
5月30日 ・31日	県支部委員長	日本赤十字社 本社	1 各ブロック赤十字奉仕団委員長会議等の報告 2 令和6年度日本赤十字社事業計画等について 3 講義「日本赤十字社の防災教材について」(「ひなんじょたいけん」の体験を含む) 4 活動事例の紹介(①防災・減災、②社会活動(講習・地域包括ケア等)③奉仕団運営等の課題への対応) 5 情報交換会(奉仕団活動紹介展示：広報誌、チラシ、活動報告書等を会場に展示) 6 分科会【テーマ】「赤十字奉仕団の役割と活動を考える」～超少子高齢社会で赤十字奉仕団等ボランティアが果たす役割、活動の可能性とは～

オ 赤十字奉仕団中央委員会常任委員会

開催日	出席者	会 場	内 容
12月6日	県支部委員長	日本赤十字社 本社	1 令和7年度赤十字奉仕団中央委員会 日程案について 2 同委員会テーマについて

カ 令和6年度赤十字ボランティア・リーダー研修会

開催日	出席者	会 場	内 容
8月24日	奉仕団委員長 1人	日本赤十字社 本社	1 赤十字の基本方針 2 赤十字について 3 リーダーシップ 4 赤十字と奉仕団 5 ニーズの重要性 6 活動を計画する 7 研修の振り返り

キ 赤十字奉仕団一日研修会

奉仕団員の意識を高揚し、真の奉仕者組織としての健全な奉仕団の育成を期するため、15郡市地区が、それぞれの主催で一日研修会を開催し、団活動についての講演、DVD上映、事例発表等を行いました。

地区別	開催日	人数（人）	地区別	開催日	人数（人）
大 津 市	10月17日	160	彦 根 市	11月26日	56
長 浜 市	11月13日	292	近江八幡市	11月15日	248
草 津 市	12月3日	115	守 山 市	10月24日	153
栗 東 市	5月24日	75	甲 賀 市	10月23日	133
野 洲 市	3月8日	84	湖 南 市	10月22日	53
高 島 市	7月1日	99	東 近 江 市	11月22日	260
米 原 市	10月17日	99	東 近 江	11月19日	66
湖 東	10月22日	126			

ク 赤十字奉仕団広報紙の発行

発 行 日	発 行 号	発行部数（部）
10月30日	第68号	16,300
3月15日	第69号	15,800

ケ 重点目標事業の推進

赤十字奉仕団重点目標に関連した奉仕団活動の活性化を図るため、3団を対象奉仕団として指定し、助成を行いました。

実 施 期 間	奉仕団名	本年度交付額（円）
令和6年4月1日～令和8年3月31日	長 浜 市 長 浜	25,000
	東 近 江 市 湖 東	25,000
	東 近 江 市 蒲 生	25,000
合 計		75,000

コ ハートラちゃんカフェ（委員長・副委員長交流会）

委員長及び副委員長同士の交流の場を提供し、研修会という枠にとわられない自由な形式で奉仕団が抱える課題について話し合うことにより、より良い団運営につながる方策を見出すこと、また、県内の様々な地域同士が情報交換を行うことにより、新たな気づきを与え合い、奉仕団活動の活性化につなげることを目的として実施しました。

開催日	参加者数 (人)	会 場	参加奉仕団 (オブザーバーとして県支部委員長、指導講師 2 人が参加)
6 月 28 日	10	滋賀県支部 会議室	長浜市びわ、甲賀市信楽町、東近江市八日市 東近江市永源寺、愛荘町秦荘
7 月 11 日	10	滋賀県支部 会議室	長浜市高月、近江八幡市、湖南市石部 東近江市五個荘、米原市山東
7 月 12 日	11	滋賀県支部 会議室	長浜市湖北、甲賀市甲南町、東近江市愛東 東近江市湖東、米原市米原、日野町
10 月 3 日	11	滋賀県支部 会議室	大津市、長浜市虎姫、長浜市西浅井 甲賀市甲賀町、高島市今津、高島市高島
10 月 4 日	8	滋賀県支部 会議室	野洲市野洲、高島市朽木、愛荘町愛知川 多賀町

サ 赤十字奉仕団員研修・復興応援旅行

実施日	参加者	宿泊地	研修テーマ・訪問施設
8 月 22 日 ～10 月 2 日	奉仕団員 1,312 人	石川県 加賀市	《日本を動かした北前船のルーツと近江商人が伝えた社会貢献三方吉野心》（特別講演） ・一筆啓上 日本一短い手紙の館 ・山中座

シ 地域赤十字奉仕団特設サイトの運用

奉仕団への入団促進と団活動の活性化を目的に運用している「地域赤十字奉仕団特設サイト」において、各団及び各地区における特色ある取組みを紹介する記事を掲載しました。

ス 赤十字奉仕団指導講師連絡会議

開催日	出席者	会 場	内 容
3 月 5 日	指導講師 4 人 県支部委員長	滋賀県支部 会議室	1 委員長会議・研修会等研修プログラムの企画・立案、担当分けについて

セ これからの赤十字奉仕団ボランティア検討委員会

人口減少、地域コミュニティの衰退等の社会環境の変化を踏まえ、災害時や平時の地域の課題解決に資するボランティア活動の拡充を図るため、赤十字奉仕団等ボランティアの維持増強並びに活動を活性化するための実践的なボランティア活動等の方向

性を検討する「これからの赤十字奉仕団ボランティア検討委員会」が設置され、赤十字奉仕団滋賀県支部委員会委員長が出席しました。

開催日	会 場	内 容
(第1回) 1月14日	日本赤十字社 本社	(1) 令和5年度の協議概要の確認及び今年度の協議事項について (2) ボランティア活動等に関する市民等を対象とした意識調査の分析結果について (3) 調査結果等を踏まえた赤十字ボランティアへの参加促進にかかる対応策について
(第2回) 1月31日	日本赤十字社 本社	(1) 第1回検討委員会の主な協議事項及び第2回検討委員会の主な協議のポイント (2) 参加促進にかかる対応方策について
(第3回) 3月12日	日本赤十字社 本社	(1) 赤十字ボランティアへの参加促進にかかる対応方策の提言とりまとめについて

ソ 広島県呉市赤十字奉仕団に対する研修会の実施

広島県呉市赤十字奉仕団員が来県され、青少年赤十字発祥の地である守山市において、「滋賀の青少年赤十字」や「赤十字奉仕団と青少年赤十字の連携」についての研修会を行いました。

開 催 日	参 加 者 数	会 場
9月29日	呉市赤十字奉仕団員95人 滋賀県支部委員会委員長 指導講師1人	守山市商工会議所

(3) 青年赤十字奉仕団の活動

事 業 名	開催日	参加人員 (人)	場 所
第1回滋賀県赤十字奉仕団研修会	4月27日	3	滋賀県支部
キッズ本格おしごと体験	5月6日	7	イオンモール草津
令和6年度青年赤十字奉仕団全国協議会 (Web会議)	5月11日	2	参加者自宅
青年赤十字奉仕団第4ブロック協議会 代表者会議	6月2日	1	兵庫県支部
第1回連絡協議会	7月22日	6	滋賀県支部
第2回連絡協議会	10月30日	6	滋賀県支部
令和6年度青年赤十字奉仕団全国協議会 (第2回)(Web会議)	1月18日	2	参加者自宅/本社
第2回滋賀県赤十字奉仕団研修会	2月1日	1	滋賀県支部
青年赤十字奉仕団第4ブロック協議会 役員会	3月9日	1	兵庫県支部
第3回連絡協議会	3月10日	5	滋賀県支部

(4) 滋賀県防災支援赤十字奉仕団の活動

令和6年度においては、防災学習の指導、研修会への参加など活動を展開しました。
主な活動は下表のとおりです。

事業名及び参加行事	開催日	参加人員 (人)	場 所
赤十字無線救護奉仕団第4ブロック連絡協議会 役員会議	4月13日	2	日本赤十字社大阪府支部
湖南市甲西赤十字奉仕団・湖南市石部赤十字奉仕団防災学習	4月16日	2	湖南市社会福祉センター
定期総会	4月27日	16	日本赤十字社滋賀県支部
第1回奉仕団研修会	4月27日	22	日本赤十字社滋賀県支部
キッズ本格おしごと体験	5月6日	8	イオンモール草津
豊郷町赤十字奉仕団委員会防災学習	5月8日	1	豊郷町豊栄のさと
防災教育事業主任指導者研修	5月17日	1	WEB
北里学区まちづくり協議会防災学習	6月1日	6	近江八幡市立北里小学校 体育館
野洲市野洲赤十字奉仕団防災学習	6月1日	2	野洲市コミュニティセンター 篠原
近江八幡市赤十字奉仕団桐原分団防災学習	6月7日	2	桐原コミュニティセンター
長浜市室町自治会防災学習	6月9日	3	長浜市立南中学校
第4ブロック合同災害救護訓練	6月15日	9	和歌山県消防学校
近江八幡市赤十字奉仕団岡山分団防災学習	6月15日	1	岡山コミュニティセンター
東近江市地区赤十字奉仕団防災学習	6月20日	2	東近江市あかね文化ホール
東近江市立五個荘中学校防災学習	7月2日	6	東近江市立五個荘中学校
滋賀県立八幡高等学校防災学習	7月5日	5	滋賀県立八幡高等学校
甲良町社会福祉協議会防災学習	7月16日	4	甲良町保健福祉センター
草津市赤十字奉仕団防災学習	7月20日	2	常盤まちづくりセンター
甲良町社会福祉協議会防災学習	7月23日	2	甲良町保健福祉センター
近江八幡市身体障害者厚生会防災学習	7月24日	2	近江八幡市総合福祉センター
びわこ学院大学防災学習	7月25日	4	びわこ学院大学スポーツ棟
防災教育事業指導者養成研修(1日目)	7月27日 ～28日	12	日本赤十字社滋賀県支部
災害ボランティアセンターコーディネーター基本研修	8月1日	2	草津市立市民交流プラザ
山入元気サロン防災学習	8月21日	3	山入自治会館
テールゲートリフター特別教育	8月24日	16	日本赤十字社滋賀県支部

防災教育事業主任指導者研修及びフォローアップ研修	9月4日	1	日本赤十字社本社
東近江市防災危機管理課防災学習	9月7日	3	東近江市役所
近江八幡市赤十字奉仕団防災学習	9月9日	6	近江八幡市総合福祉センター
蒲生東小学校防災学習	9月13日	5	蒲生東小学校
豊郷町赤十字奉仕団（雨降野班）防災学習	9月14日	1	雨降野公民館
東近江市永源寺赤十字奉仕団防災学習	9月22日	6	永源寺運動公園
防災ボランティアリーダー養成研修	9月28日	1	WEB
甲良町立甲良中学校防災学習	10月2日	4	甲良町立甲良中学校多目的室
守山市木浜自治会防災学習	10月6日	5	守山市速野小学校
湖南市甲西赤十字奉仕団防災学習	10月22日	2	湖南市社会福祉センター
湖東地区赤十字奉仕団防災学習	10月22日	2	ハーティー秦荘
滋賀県総合防災訓練（ボランティアセンター機動運営訓練）	10月24日	3	滋賀県危機管理センター
びわこ学院大学防災学習	10月29日	3	びわこ学院大学 1131セミナー室
大津市総合防災訓練事前会議	10月29日	3	小野市民センター
しがワークフェスタ	11月3日	10	草津市YMITアリーナ
甲賀市立甲南第三小学校防災学習	11月9日	4	甲賀市立甲南第三小学校
大津市総合防災訓練	11月10日	5	小野市民センター
守山市小津学区防災学習	11月13日	2	滋賀県危機管理センター
近江八幡市地区赤十字奉仕団防災学習	11月15日	3	滋賀県立男女共同参画センター G-NET しが
栗東市地区（自治連合会役員）防災学習	11月19日	2	栗東市役所
東近江市赤十字奉仕団防災学習	11月22日	2	東近江市湖東コミュニティセンター
滋賀県立高島高等学校防災学習	11月25日	7	滋賀県立高島高等学校
赤十字体験バス（第1回）	11月27日	2	滋賀県赤十字血液センター
大津市立小松小学校防災学習	12月5日	4	大津市立小松小学校
豊郷町赤十字奉仕団（八町班）防災学習	12月7日	2	八町公民館
近江八幡市赤十字奉仕団防災学習	12月11日	1	近江八幡市総合福祉センター ひまわり館
大津市立小松小学校防災学習	1月9日	2	大津市立小松小学校
栗東市地区防災学習	1月20日	1	栗東市役所
赤十字体験バス（第2回）	1月24日	3	滋賀県赤十字血液センター
第2回奉仕団研修会	2月1日	24	日本赤十字社滋賀県支部

栗東市地区防災学習	2月3日	8	栗東市役所
大津市社会福祉協議会防災学習	2月9日	3	明日都浜大津
甲賀町赤十字奉仕団防災学習	3月1日	4	かふか生涯学習館横 保健センター
赤十字体験バス（第3回）	3月7日	2	滋賀県赤十字血液センター
北びわこ農業協同組合防災学習	3月18日	2	北びわこ農業協同組合 本店別館

※上記のほか、滋賀県防災支援奉仕団の役員会をWEB会議で9回開催。

(5) 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団の活動

ア 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団役員会

開催日	参加者数	会 場	内 容
6月14日	4人	日赤滋賀県支部 会議室	【報告事項】 令和5年度事業報告並びに収支決算について 令和5年度青少年赤十字加盟状況について 役員改選 【協議事項】 令和6年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について その他
12月19日	7人	守山駅前 コミュニティホール	【報告事項】 令和6年度事業報告並びに収支決算見込みについて 令和6年度賛助奉仕団員の入団・退団状況について 県内の青少年赤十字加盟状況について 【協議事項】 第34回第4（近畿）ブロック青少年赤十字賛助 奉仕団交流研修会について その他

イ 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団総会

開催日	参加者数	会 場	内 容
7月16日	6人	日赤滋賀県支部 会議室	【協議事項】 令和5年度事業報告並びに収支決算報告 令和6年度事業計画（案）並びに収支予算（案） 役員改選 その他 【報告事項】 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団活動推進委員会の 報告 滋賀県青少年赤十字指導者協議会関係の報告

ウ その他の会議、行事参加

開催日	出席者数	会 場	事 業
7月2日	3人	日赤滋賀県支部 会議室	滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団活動推進委員会の開催
7月11日 ～12日	1人	日本赤十字社本社	全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会及び創立60周年記念式典・講演会・祝賀会の出席
8月6日 ～7日	1人	栗東市立 自然体験学習セン ター森の未来館	滋賀県青少年赤十字リーダーシップトレーニング・センターへの出席
10月17日 ～18日	5人	日赤兵庫県支部	研修・交流会、見学
11月22日	4人	長浜市立 北郷里小学校	JRC研究推進委嘱校研究発表会への参加
1月23日	3人	日赤滋賀県支部 会議室	第1回滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団委員長副委員長会の開催
2月4日	3人	日赤滋賀県支部 会議室	滋賀県青少年赤十字指導者協議会郡市支部長会への出席
3月5日	3人	日赤滋賀県支部 小会議室	第2回滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団委員長副委員長会の開催

エ 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団広報紙「JRC 賛助奉仕団しが」の発行

開催日	号 数	部数(部)	内 容
9月20日	第40号	400	令和6年度滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団事業実施状況 滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校研究発表会案内 滋賀県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター 実践内容など
2月28日	第41号	400	令和6年度滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団役員名簿、 滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校研究発表会参加報告 近畿ブロック交流研修会参加報告など

(6) 個人ボランティア

赤十字事業の推進を目的として、赤十字病院、血液センターなど県内の各赤十字施設に登録しているボランティアが活動しています。

施 設 名	人数・ グループ	活 動 内 容
大 津 赤 十 字 病 院	42人・ 6グループ	総合案内のお手伝いや図書の貸出し、衛生材料の整理，コンサート開催など (令和6年度は活動休止)
大 津 赤 十 字 志 賀 病 院	1人	園芸（施設内除草、花の管理）
長 浜 赤 十 字 病 院	46人	外来者の受付や案内、入浴介助など
滋賀県赤十字血液センター	69人	献血者への文書発送手伝い、献血者処遇品の準備など

8 青少年赤十字

青少年のうちから赤十字の精神を養うとともに、世界各国の青少年と手を結んで健康と安全の増進、国際親善などを行うことにより、青少年の健全育成を図るため、小・中・高等学校の児童、生徒を対象として学校内で組織されたものが青少年赤十字です。現在世界の赤十字加盟は191の国と地域ですが、多くの加盟国で青少年赤十字が取り入れられています。

(1) 加盟校の状況

区 分	校 種 別	令和 6 年度	前年度比
園、学校数	幼 稚 園 等	9	0
	小 学 校	164	4
	中 学 校	47	2
	義 務 教 育 学 校	2	0
	高 等 学 校	13	△ 1
	特 別 支 援	1	0
	総 数	236	5
学級または グループ数	幼 稚 園 等	55	△ 2
	小 学 校	2,224	13
	中 学 校	648	71
	義 務 教 育 学 校	18	0
	高 等 学 校	97	△43
	特 別 支 援	61	△18
	総 数	3,103	21
児童・生徒数 (人)	幼 稚 園 等	1,168	△56
	小 学 校	51,311	△143
	中 学 校	19,198	1,796
	義 務 教 育 学 校	328	△ 7
	高 等 学 校	2,740	△275
	特 別 支 援	402	33
	総 数	75,147	1,348

(2) 青少年赤十字指導者協議会郡市支部長会の開催

開催日	会 場	出席者数	協 議 事 項
6月27日	北郷里まちづくりセンター	11人	【報告事項】 1 令和5年度青少年赤十字事業報告について 【協議事項】 1 令和6年度青少年赤十字事業計画(案)について 2 役員改選(案)について
2月4日	勤労青少年ホーム	12人	【報告事項】 1 令和6年度青少年赤十字事業報告について 2 青少年赤十字研究推進委嘱校の研究報告書について 【協議事項】 1 令和7年度青少年赤十字事業計画(案)について 2 その他 ・滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団並びに滋賀県青少年赤十字指導者協議会との連携について

(3) 本社及びブロック主催の講習会、研修会開催状況

区 分	主 催	開催日	開催場所	参 加 者
リーダーシップ・トレーニングセンター指導者養成講習会	日本赤十字社 本社	5月31日 ～ 6月2日	国立オリンピック記念センター	県内参加者1人 担当職員1人
指導主事対象青少年赤十字研究会	日本赤十字社 本社	1月10日	日本赤十字社本社会議室	指導主事1人
青少年赤十字近畿ブロック指導者研修会	日赤 和歌山県支部	3月1日	日赤和歌山県支部	県内参加者3人

(4) 支部主催のトレーニングセンター開催状況

区 分	開催日	開催場所	参 加 者
リーダーシップ・トレーニングセンター指導者事前打合せ会	7月23日	栗東市立自然体験学習センター 森の未来館	会長、指導部長、県指導員3人、県内指導者3人
第58回滋賀県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター	8月6日～7日	栗東市立自然体験学習センター 森の未来館	小学生15人、高校生4人、スタッフ等14人

(5) その他の会議・行事等

区 分	開催日	会 場	出席者数	備 考
第1回指導部役員会	5月8日	日赤滋賀県支部 会議室	3人	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度事業報告 令和6年度事業計画（案） リーダーシップ・トレーニングセンターについて
第1回滋賀県青少年 赤十字高校生連絡協 議会	5月30日	草津市立市民総 合交流センター （キラリエ草津）	34人	<ul style="list-style-type: none"> 各学校の活動紹介 役員選出 三角巾を使った応急手当
滋賀県青少年赤十字 第76回定期総会並び に研修会	6月27日	北郷里まちづく りセンター	28人	<ul style="list-style-type: none"> 加盟校表彰 令和5年度事業報告 令和6年度事業計画（案） 役員改選 講演 『『気づき・考え・実行する』 を活かした学校づくり～子 どもが変わる・学校が変わ る・やがて地域・・・～』 前高島市立本庄小学校 校長 武田定樹氏
滋賀県青少年赤十字 指導者研修会	7月9日	G-NETしが 滋賀県立男女共 同参画センター	14人	<ul style="list-style-type: none"> リーダーシップ・トレーニ ングセンター指導者養成講 習会のフィードバック 学校活動の中で活かせるレ クリエーションについて
青少年赤十字全国指 導者協議会・総会	7月12日	日本赤十字社 本社	1人 （会長）	<ul style="list-style-type: none"> 役員改選 報告事項 講演 グループディスカッション
第2回滋賀県青少年 赤十字高校生連絡協 議会	11月1日	滋賀県危機管理 センター	25人	<ul style="list-style-type: none"> 各校の活動状況について 防災コミュニケーション ワークショップ
青少年赤十字指導者 中央講習会	11月4日	日本赤十字社 本社	1人	<ul style="list-style-type: none"> 講演 校種別分科会 実践講座及びグループディ スカッション
第47回青少年赤十字 研究推進委嘱校発表 会	11月22日	長浜市立 北郷里小学校	149人 + 保護者	<ul style="list-style-type: none"> 研究主題「自ら学び、考え、表 現できる子の育成～自分の思 いを明確に持ち、生き生きと 表現できる子をめざして～」 児童発表 公開授業「国語科」 研究発表 指導講評

第2回指導部役員会	12月20日	日赤滋賀県支部 会議室	7人	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度事業報告 令和7年度事業計画（案） リーダーシップ・トレーニングセンターについて
青少年赤十字スタ ディー・センター	3月22日 ～26日	山梨県東照館	2人	<ul style="list-style-type: none"> 赤十字と青少年赤十字について グループの活動・運営についての学習と実習 国際理解 問題の発見・解決の実習 新たな青少年赤十字活動の計画

(6) 青少年赤十字メンバー・加盟校応援プロジェクト事業

青少年赤十字加盟校が行う自主的かつ意欲的な実践活動を支援し、その活動成果を広く普及することにより、青少年赤十字活動の一層の振興を図ることをねらいに実施し、下記のとおり助成を行いました。

区 分	件 数（件）	助 成 額（円）
幼稚園	1	10,000
小学校	5	192,230
中学校	1	50,000
合 計	7	252,230

(7) 青少年赤十字機関紙「JRCしが」の発行

滋賀県内の青少年赤十字活動を広く周知するため、JRCしが（No.30）を4月1日に発行し、県内の全小中高等学校等に配布して普及に努めました。

9 看護師の教育

赤十字看護師の教育は、明治29（1896）年からの長い歴史と伝統を誇る重要な事業の一つであり、災害救護業務の要員を確保するとともに、医療施設の要員充足をはかり、併せて看護師不足に対応すべく優秀な看護師を社会に送り出すことを目的としています。

大津赤十字看護専門学校は大津市小関町に設置され、1学年養成定員を40人とし、本年度は下記のとおり養成しました。

令和6年度の養成人員				令和6年度迄の 養成人員
1年	2年	3年	計	
27人	33人	22人	82人	3,531人

10 国際活動

(1) 「NHK 海外たすけあい」キャンペーンの実施

12月1日から25日の間、令和6年度「NHK 海外たすけあい」キャンペーンを本社・支部・赤十字病院・血液センター、NHK 各放送局、全国の郵便局、各金融機関等の協力を得て実施しました。

本キャンペーンの募金額は下記のとおりですが、この資金をもとに、日本赤十字社は世界各地の紛争や自然災害、病気で苦しむ人々に対して救援事業や開発協力事業を行いました。

実績内訳

区 分		件 数 (件)	金 額 (円)
滋賀県	支部・施設等窓口扱い分	1,050	1,795,123
	本社扱い	249	3,766,363
全 国	支部・施設等窓口扱い分	35,599	85,592,947
	本社扱い分	42,863	640,348,471
	合 計	78,462	725,941,418

(2) 令和6年度第4ブロック合同国際人道法普及研修への参加

1月17日、日本赤十字社第4ブロック合同による同研修がオンライン形式で開催され、講師として長浜赤十字病院及び滋賀県赤十字血液センター（各1人）の職員が指導にあたりました。また、受講者として滋賀県赤十字奉仕団指導講師3人、大津赤十字志賀病院4人、長浜赤十字病院2人が参加しました。

11 赤十字思想の普及

赤十字の理念や赤十字の活動について県民の理解を深め、一層の協力を得るため、5月の運動月間をはじめ、年間を通じて広報活動を展開しました。

(1) 本社作成の広報資材の配布

名 称	作製目的・主な内容	主な配布（視聴）対象
活動紹介用リーフレット	赤十字活動のPRと会員募集 (8,000部)	地区・分区、各施設 活動資金協力者ほか
赤十字運動用PRポスター	赤十字活動のPRと会員募集 (9,050部)	地区・分区、各施設ほか
赤十字NEWS	日本赤十字社広報紙 (32,620部)	赤十字関係者
全国統一会員誌	会員への情報提供 (10,827部)	赤十字会員
活動紹介DVD	日本赤十字社活動紹介DVD 「赤十字この1年」	地区・分区、各施設

(2) 支部作成の広報資材の配布

名 称	作製目的・主な内容	主な配布（視聴）対象
活動資金募集用チラシ	赤十字活動のPRと会員募集 (520,000部)	一般
支部広報誌「赤十字しが」	滋賀県支部の事業実施状況報告 (15,000部)	赤十字会員、奉仕団、地区・ 分区、各施設ほか
赤十字PRパネルB0版	赤十字活動のPRと会員募集	各施設
事業報告書	滋賀県支部の事業実施状況報告	支部役員・評議員、地区・分 区、各施設
ポケットティッシュ	赤十字活動PRと地域奉仕団員 募集（44,000個）	地区・分区、奉仕団、各施設

(3) 主な広報活動

ア テレビスポットによる広報

びわ湖放送株式会社様のご協力を得て、以下のとおりテレビスポットによる広報を実施しました。

- ・期間 5月1日～31日（6月以降も放映）
- ・TV－CM 15秒/30秒

イ ラジオスポットによる広報

株式会社エフエム滋賀様のご協力を得て、以下のとおりラジオスポットによる広報を実施しました。

- ・期間 5月1日～31日（6月以降も放送）
- ・ラジオCM 2タイプ/各20秒

ウ JR駅構内でのB2ポスターの掲出

- ・期間 5月1日～31日

エ 京阪電車への遺贈広告の掲出

- ・期間 2月1日～1月31日（年間）

オ 平和堂、近江鉄道等でのB2、B3ポスターの掲出

- ・期間 5月1日～31日

カ 横断幕の掲出

- ・場所 びわこ浜大津駅から明日都浜大津をつなぐ歩道橋
- ・内容 人間を救うのは、人間だ
- ・期間 4月1日～5月31日

キ SNS（Instagram）を利用した広報活動

幅広い年代に赤十字の活動を身近に感じてもらえるよう、活動紹介や事業の発信を行いました。また、認知度の拡大、フォロワーの増加を目的として、5月の運動月間と9月の防災月間において、ハッシュタグキャンペーンを実施しました。

ク 懸垂幕の掲出

- ・場所 日本赤十字社滋賀県支部事務所入居ビル横
- ・内容 あなたの赤十字活動へのご寄付が いのち 健康 尊厳 を守ります。

ケ 支部ホームページの充実

不特定多数の方々にPRが図れる広報媒体であることから、当支部をはじめとする日本赤十字社の活動紹介、救急法等の健康・安全講習の案内、青少年赤十字活動の紹介など、更なる赤十字活動の発信に努めました。

コ キッズ本格おしごと体験への出展

5月6日、イオンモール草津1階セントラルコートにおいて開催された「キッズ本格おしごと体験」(株式会社アミカル主催)へブース出展しました。心肺蘇生体験、手作り防災グッズ体験、赤十字救護服・看護実習衣の試着体験を設け、226組の家族連れなどが、赤十字が行う様々な活動を体験していただきました。イベントには支部職員4人のほか防災支援赤十字奉仕団、大津赤十字看護専門学校奉仕団「めだか」から計16人の団員が運営のサポートにあたりました。

(4) 赤十字活動紹介パネルの作製

滋賀県支部、赤十字奉仕団、地区・分区が開催、参加するイベントで展示し、参加者に赤十字活動を理解していただくことを目的に13種類のパネルを作製しました。

(5) 赤十字体験バスの開催

滋賀県赤十字血液センターを会場に地域で赤十字活動資金の募集等に携わっていただいている自治会役員等の地域コミュニティのリーダーを対象に、赤十字活動の説明や施設見学、救急法等の講習体験等を通じて、赤十字の理念や活動の理解を深めていただくことを目的に開催しました。

対象	開催日	参加者数	内容
米 原 市 地 区 (米原市地区自治会)	11月27日	13人	<ul style="list-style-type: none">・赤十字活動の説明・赤十字災害救護活動及び災害救援物資等の説明・災害時の非常食(ハイゼックス)体験・支部災害救護倉庫の説明・献血活動の説明・DVD視聴「赤十字この1年」・赤十字防災セミナー体験
守 山 市 地 区 (守山市速野学区木 浜自治会)	1月24日	15人	<ul style="list-style-type: none">・赤十字活動の説明・赤十字災害救護活動及び災害救援物資等の説明・災害時の非常食(ハイゼックス)体験・支部災害救護倉庫の説明・献血活動の説明・能登半島地震災害への対応説明・赤十字防災セミナー体験

日 野 町 分 区 (日野町民生委員児童委員協議会)	3 月 7 日	21 人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤十字活動の説明 ・ 赤十字災害救護活動及び災害救援物資等の説明 ・ 災害時の非常食（ハイゼックス）体験 ・ 支部災害救護倉庫の説明 ・ 献血活動の説明 ・ DVD視聴「赤十字この1年」 ・ 赤十字防災セミナー体験
-------------------------------	---------	------	---

(6) 「ACTION！防災・減災」の実施

東日本大震災から10年を機に、改めて防災・減災のメッセージを打ち出し、未来に目を向けた「防災・減災への備え」を訴求し、防災意識を高める取り組みを引き続き実施しました。

ア 期間：令和7年3月1日～3月31日

イ キャンペーンの内容

① 寄付による支援

本キャンペーンの実施にあたり、以下の企業・団体からご寄付によるご支援をいただきました。

○ご支援いただいた企業・団体等

甲賀高分子株式会社、三和産業株式会社、株式会社川嶋機械、近江ユニキャリア販売株式会社、草津電機株式会社、株式会社田中誠文堂、株式会社フジケン、ビル管財株式会社、滋賀双葉ビル整備株式会社、滋賀県立八幡高等学校、三協高圧株式会社、花文造園土木株式会社（計12・順不同）

② ポスター掲示

期間中、以下の企業・団体等の事業所などにポスターを掲出していただきました。

○ご賛同いただいた企業・団体等

甲賀高分子株式会社、三和産業株式会社、株式会社川嶋機械、近江ユニキャリア販売株式会社、草津電機株式会社、株式会社田中誠文堂、株式会社フジケン、ビル管財株式会社、滋賀双葉ビル整備株式会社、滋賀県立八幡高等学校、三協高圧株式会社、花文造園土木株式会社、社会福祉法人米原市社会福祉協議会（計13・順不同）

(7) 滋賀県赤十字血液センターとのイベント共同企画

8月23日、同施設にて、小学生を対象とした学習イベント「赤十字キッズアクションデー2024」を開催しました。献血の大切さや防災・減災の考え方を身につけてもらうきっかけを提供することを目的とし、小学生23人が参加しました。滋賀県支部は、赤十字についての説明のあと、防災コミュニケーションワークショップ（BCW）を行いました。

12 有 功 会

日本赤十字社滋賀県支部有功会は、金色有功章を受章され、趣旨に賛同された方々により、昭和48年10月1日、会員58人で発足しました。平成9年から銀色有功章受章者まで会員範囲を拡大し、会員相互の親睦や健康の保持、赤十字思想の普及と重要業務の進展に協力、人類福祉の増進に寄与することに努めています。

(1) 会員の数（個人・法人）

前年度末会員数	本年度新規会員数	退 会 者 (亡くなられた方を含む)	年度末会員数
332人	17人	29人	320人

(2) 事業内容

ア 有功会総会の開催

7月26日（金）10時から琵琶湖ホテルにおいて開催

81人出席

審議内容

- ・令和5年度有功会事業並びに収支決算報告書
- ・令和6年度有功会事業計画（案）並びに収支予算（案）
- ・日本赤十字社滋賀県支部有功会結成50周年記念特別募集のご報告

イ 特別講演会

「災害医療と関わって30年 いろいろな事がありました」

講師 長浜赤十字病院 救命救急センター長（兼）救急科部長
（兼）医療社会事業部長 中村 誠昌 医師

ウ 会員懇親会

7月26日（金）

総会終了後、同会場にて開催 74人出席

エ 日赤紺綬・有功会会長協議会総会

11月6日（水）14時30分～20時

盛岡市 ホテルメトロポリタン盛岡 ニューウィング

オ 会員親睦旅行

10月24日（木）～25日（金） 1泊2日

鳥根県方面 玉造温泉「佳翠苑 皆美」 20人参加

カ 会員健康診断

	2日（1泊）	1日
大津赤十字病院	18人	60人
長浜赤十字病院	3人	8人
合 計	21人	68人

キ 大津赤十字看護専門学校卒業生に卒業記念品の贈呈

令和6年度大津赤十字看護専門学校卒業生21人に卒業記念品〔真空断熱ケータイマグ（水筒）〕を贈呈しました。

ク 青少年赤十字活動支援

滋賀県支部主催の「青少年赤十字メンバートレーニングセンター」参加メンバーと指導者計33人に対し、参加記念品（糸杉コットンバッグ、クリアファイル、リングメモ帳、青少年赤十字定規）を贈呈しました。

ケ 災害救護活動支援

災害時に救護班が携行する災害救護物品（スキャナー）を滋賀県支部へ寄贈しました。

コ 国際活動事業の支援

NHK 海外たすけあい 支援金額 30,000円

サ 法人会員による「ACTION！防災・減災キャンペーン」への協力

協力企業 11社

甲賀高分子 株式会社

三和産業 株式会社

株式会社 川嶋機械

近江ユニキャリア販売 株式会社

草津電機 株式会社

株式会社 田中誠文堂

株式会社 フジケン

ビル管財 株式会社

滋賀双葉ビル整備 株式会社

三協高圧 株式会社

花文造園土木 株式会社

シ 役員会等の開催

2月28日（金）

14時から日本赤十字社滋賀県支部会議室において開催

- ・令和6年度有功会事業報告並びに収支決算について
- ・令和7年度有功会事業計画（案）並びに収支予算（案）について
- ・令和7年度有功会親睦旅行について
- ・役員の改選について

13 一般会計決算概要

歳 入

(単位：円)

科目	年度	令和6年度 決 算	令和5年度 決 算	比較増減	対前年度比 (%)	付 記
1 一般社資収入		160,188,744	207,674,944	△ 47,486,200	77.1	
2 法人社資収入		34,913,192	43,405,727	△ 8,492,535	80.4	
3 委託金等収入		18,324,620	0	18,324,620	－	能登半島地震災害救助費
4 補助金及び交付金収入		3,424,889	3,811,428	△ 386,539	89.9	施設整備交付金、現物給付ほか
5 繰入金収入		530,000	992,027	△ 462,027	53.4	国際救護活動資金繰入金(R5年度) 事業準備積立金繰入金(R6年度)
6 雑収入		2,682,554	2,268,647	413,907	118.2	利子収入、講習等負担金収入、青少年赤十字等行事参加収入ほか
7 前年度繰越金		63,772,162	50,187,317	13,584,845	127.1	
歳入合計		283,836,161	308,340,090	△ 24,503,929	92.1	

歳 出

(単位：円)

科目	年度	令和6年度 決 算	令和5年度 決 算	比較増減	対前年度比 (%)	付 記
I 災害救護事業費		41,488,454	36,359,167	5,129,287	114.1	
1 災害救護指導事業費		35,751,316	28,547,749	7,203,567	125.2	救護員の養成訓練費、能登半島地震災害救助費
2 災害救護装備費		2,997,378	4,006,497	△1,009,119	74.8	災害救護資材整備等に要した費用
3 非常災害救援物資整備費		0	815,571	△815,571	－	大判タオル等整備費
4 救護看護師指導養成費		2,739,760	2,989,350	△249,590	91.7	救護看護師の養成に要した費用
II 社会活動費		40,997,307	41,860,250	△862,943	97.9	
1 救急法等普及費		10,409,636	11,941,783	△1,532,147	87.2	救急法、健康生活支援講習等の普及費用
2 奉仕団活動費		18,899,090	18,871,793	27,297	100.1	奉仕団育成に要した費用
3 青少年赤十字活動費		8,101,807	7,522,812	578,995	107.7	青少年赤十字育成に要した費用
4 社会福祉活動費		102,250	95,740	6,510	106.8	社会福祉活動に要した費用
5 医療事業費		124,510	168,585	△44,075	73.9	衛生普及に要した費用
6 血液事業費		3,360,014	3,259,537	100,477	103.1	血液事業の普及等に要した費用
III 国際活動費		0	992,027	△992,027	－	国際赤十字社等による救援活動等に要した費用
IV 指定事業地方振興費		3,000,000	6,192,027	△3,192,027	48.4	
1 災害救護設備整備費		2,900,000	4,900,000	△2,000,000	59.2	災害救護資機材に要した費用
2 支部国際活動基金積立金		0	992,027	△992,027	－	国際赤十字社等による救援活動等の資金積立に要した費用
3 募集事務費		100,000	300,000	△200,000	33.3	社資募集に要した費用
V 地区区分交付金支出		11,072,796	11,763,355	△690,559	94.1	地区区分に対する会員管理事務及び募集事務等に要した費用
VI 社業振興費		19,957,155	16,900,484	3,056,671	118.1	広報及び社資募集に要した費用
VII 基盤整備交付金・補助金支出		7,602,000	16,020,000	△8,418,000	47.5	
1 施設操出金		0	5,000,000	△5,000,000	－	新型コロナウイルス感染症に対応する県内赤十字施設への支援費用
2 使途指定寄付金操出金		7,602,000	11,020,000	△3,418,000	69.0	医療施設への使途指定寄付金
VIII 総務・管理費		43,209,359	42,097,750	1,111,609	102.6	給与費、庁舎管理等に要した費用
IX 本社送納金支出		28,131,290	35,783,796	△7,652,506	78.6	本社社資送納金
X その他		88,377,800	100,371,234	△11,993,434	88.1	
1 積立金支出		48,311,759	36,599,072	11,712,687	132.0	施設整備準備資金積立金等
2 予備費		0	0	0	－	
3 翌年度繰越金		40,066,041	63,772,162	△23,706,121	62.8	
歳出合計		283,836,161	308,340,090	△24,503,929	92.1	

Ⅱ 医療事業・医療施設特別会計決算概要

県内3つの赤十字病院において、災害時は、救護活動、平時には一般医療・救急医療・健康相談等医療社会活動を実施し、地域住民の医療確保と福祉の増進に努めています。

1 大津赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職 員 数				入院患者数			外来患者数		
許可病床	実働病床	医師	看護師	その他	計	延人数	一日平均	一日対前年平均比	延人数	一日平均	一日対前年平均比
(床)	(床)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(%)
672	598	262	793.5	469.3	1524.8	194,220	532	106.7	351,037	1,451	97.7

(2) 医療施設の経営状況

令和6年度の医業収益は、新入院患者数の増加、全身麻酔による手術件数の増加などにより入院診療単価が前年度から更に増加、さらにDPC（診断群分類包括評価）Ⅱ期を意識した入院期間の推進により病床稼働率も向上し、前年度比14.7億円増の227.2億円となりました。対する医業費用は、看護職員・医療職員の増加に伴い給与支給額が増加したほか、人件費全体としても高騰傾向にあります。しかしながら、退職給付債務において、確定給付企業年金部分の債務計算における割引率の変更（1.0%から2.3%へ引き上げ）による数理計算上の差異として多額の給与費の戻入が生じ、この影響を受けて、医業費用全体として前年度比20.3億円減の213.8億円となりました。以上により医業収支は前年度比35.0億円増の13.4億円の黒字決算となりました。総収支においては前年度比31.7億円増の16.2億円の黒字決算となりました。

① 経営改善への取り組み

令和6年度は、診療報酬改定に適切に対応するとともに、新入院患者の確保、病床稼働率および入院診療単価の向上に取り組みました。特に、経営改善を目的として管理者を対象に臨時の拡大全体会議を開催し、職員間で課題と方向性を共有したことで、病床運営に対する共通認識が醸成され、大きな増収効果を得ることができました。

令和6年度は退職給付債務の戻入による影響により黒字決算となりましたが、これは非資金性の費用の戻入に対する影響であり、引き続き実質的な経営改善に取り組んでまいります。

② 医療の質の向上、安心・安全・感染対策の向上

医療の質の向上に向けて、病院機能評価（3rdG：Ver.3.0）を受審、更新の認定を受けました。また、チーム医療の推進および医療の質向上の一環として、毎年TQM発表会を開催し、業務の効率化や改善活動に向けた職員の意識向上に努めています。感染対策では、改正感染症法に伴い、第一種協定指定医療機関として重症患者の受け入れ体制を整え、安全・安心な医療の提供を継続しています。

③ 地域との医療連携の推進

地域医療支援病院として、地域包括ケアシステムに貢献し、退院支援においては、患者支援センターを中心にかかりつけ医や後方医療機関とのスムーズな連携を推進しました。紹介受診重点医療機関としては、外来完全予約制を試行導入し、紹介患者の受け入れ体制を強化するとともに、急性期医療における効率的で質の高い外来医療の提供に取り組みました。

「眼の健康講座」や「市民のためのがん講座」、「赤十字県民大学」などを継続して実施し、地域住民への健康増進活動の啓発に努めるとともに、SNSを活用した広報活動の強化も図りました。

④ 救急医療・災害医療

高度救命救急センターおよび総合周産期母子医療センターとして、高度な医療体制の充実に引き続き取り組みました。ラピッド・ドクターカーの積極的な運用や、時間外選定療養費の導入により、重症患者の優先的な受け入れを推進しました。

災害医療では、滋賀県唯一の基幹災害拠点病院として、また、原子力災害拠点病院として、院外での各種訓練への参加、院内での赤十字救護班基礎教育研修会の開催や、大規模災害時の傷病者受入訓練の実施など、有事に備えた対応を継続しました。

また、令和6年1月に発災した能登半島地震に際しては、現地に派遣された職員による活動報告会を開催し、得られた学びや課題を職員間で共有することで、赤十字としての今後の災害救護活動に向けた体制の充実に活かしています。

⑤ 医療DXの推進

院内にDX推進室を設置し、医療の質の向上と業務負担の軽減を推進しました。タスクシフト・シェアや業務のデジタル化を通じて働き方改革を支援し、患者サービスの向上を図っています。救急外来にはAI問診システムを導入し、初期対応の効率化と質の向上につながりました。今後は、このAI問診システムを一般外来にも順次拡大導入していく予定です。また、マイナンバーカードによる顔認証付きカードリーダーを増設し、マイナ保険証の利用促進にも取り組んでいます。

⑥ 人材育成・職場環境の改善・働き方改革

人材の育成と確保に継続して取り組み、鏡視下・ロボット手術センター研修室の開設により、高度な医療技術を担う人材の育成環境を整備しました。また、卒後臨床研修評価機構（JCEP）の認定を新規で取得し、教育の質の向上にも努めています。

医師の働き方改革に対応し、タスクシフト・シェアの推進による負担軽減を図り、職員の勤務環境の改善に取り組みました。さらに、ハラスメントのない職場づくりや職員満足度の向上に向けて、職員の意見を収集し、改善活動を重ねることで、誰もが安心して働き続けられる環境の実現を目指しています。

(3) 施設等整備

MRI装置の更新、クリーンルーム改修および無菌治療室ユニット更新、陰圧室改修・増設および簡易型陰圧装置設置、放射線治療計画支援システムなど、機能維持及び向上のための整備を実施しました。

(4) 決算概要

収益的収入および支出

(単位：千円)

科 目	令和 6 年度決算額	令和 5 年度決算額	比較増減	対前年度比 (%)
病院収益	23,392,780	22,441,943	950,837	104.2
医 業 収 益	22,719,625	21,249,221	1,470,404	106.9
医 業 外 収 益	603,239	1,117,117	△513,879	54.0
医療社会事業収益	0	0	0	－
付 帯 事 業 収 益	69,917	69,004	912	101.3
特 別 利 益	0	6,600	△6,600	0.0
病院費用	21,772,884	23,987,896	△2,215,012	90.8
医 業 費 用	21,383,260	23,415,479	△2,032,220	91.3
医 業 外 費 用	128,581	207,128	△78,547	62.1
医療奉仕費用	148,340	199,712	△51,371	74.3
付 帯 事 業 費 用	108,700	162,418	△53,718	66.9
特 別 損 失	3,725	3,488	238	106.8
法 人 税 等	278	△328	606	△84.9
収支差引額	1,619,896	△1,545,953	3,165,849	

資本的収入および支出

(単位：千円)

収 入		支 出	
固定負債	201,276	固定資産	1,058,293
資産売却収入	0	借入金等償還	25,491
その他資本収入	882,508		
計	1,083,784	計	1,083,784

2 大津赤十字志賀病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職 員 数				入院患者数			外来患者数		
許可病床	実働病床	医 師	看 護 師	そ の 他	計	延 人 数	一 日 平 均	一 対 前 年 平 均 比	延 人 数	一 日 平 均	一 対 前 年 平 均 比
(床)	(床)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(%)
150	150	15.9	88.1	60.7	165.1	35,588	97.5	101.7	51,982	214.8	94.8

(2) 医療施設の経営状況

令和 6 年度の医業収益は、前年に比べて3.6%の減収となりました。内訳は、入院診療収益が1.1%の増加、外来診療収益が12.1%の減少、保健予防活動収益が0.4%の増加でした。対する医業費用も全体で27.1%減少しました。内訳としては、材料費が5.0%減少、給与費は39.6%減少しました。給与費の大幅な減少は、退職給付会計において年度末に本社からの指示により 3 億 7 千万円の戻入があったことによるもので、対医業収益比では50.8%と低い比率となりました。その結果、医業収支は 1 億 1 千 3 百万円の黒字となり、また、県や大津市保健所による一部補助事業等もあり、総収支は 3 億 8 千 1 百万円の黒字となりました。

① 医師及び看護師の確保

令和6年度の医師確保状況につきましては、年末に1名の退職に続き、年度末にも2名が退職され、採用による補充ができていない状況です。依然として内科系医師の欠員は解消されておらず、医師の確保は引き続き最優先課題となっております。また、看護師については2名の採用がありましたが、年度途中の退職には対応が間に合わず、加えて病気休職や産休等への対応も困難さを増しております。その結果、夜勤対応が可能な看護師の不足が深刻化しております。次年度に向けては医師の確保を最優先にし、看護師の確保及び看護補助者の確保にも注力する予定です。

② 健全経営の推進

地域包括ケア病棟は、年間平均稼働率70.2%を維持できましたが、急性期病棟は感染症対応の影響もあり、年間平均56.8%にとどまりました。療養病棟についても68.1%と、全体的に稼働率は低下傾向にあります。また、外来診療収益においては、新型コロナウイルス感染症の落ち着きに伴い、発熱外来の患者数が減少したことから、大幅な減収となりました。コロナ禍が明けた現在も、患者の受診控えが続いており、入院患者数は伸び悩んでおります。今後は、病院全体で入院患者の確保に努め、病床稼働率の向上に注力してまいります。

③ 病院機能のあり方

2025年の超高齢化社会の到来に対応するため、これまで2病棟体制で運営してきた急性期病棟のうち1病棟を、2014年に地域包括ケア病棟へと改編しました。これにより、急性期（2階・50床）、回復期（3階・50床）、慢性期（4階・50床）としての届出を行ったうえで運営しております。地域医療構想の動向を注視しながら、当院が有する急性期から慢性期までの機能を最大限に発揮できるよう、救急医療や地域連携に積極的に取り組むとともに、安定した病床運営に努めてまいります。また、行政からの要請に対しても積極的に対応し、外来診療機能の維持や感染症病床の確保などにも取り組んでおります。

④ 施設整備・修繕、医療器械の新規購入・更新

一般放射線臥位撮影装置や、電動油圧手術台、X線骨密度測定装置などの更新を行いました。今後も計画的な医療機器の更新や施設の修繕を実施することとしております。

⑤ 病診連携と介護施設との連携強化

令和6年度における診療所からの診察紹介件数は1,052件、またCT・MRI等の検査紹介件数は2,052件と、前年度の1,846件からわずかに増加しました。検査結果を迅速に開業医へ返送することを徹底し、信頼の構築に努めてまいりました。また、介護福祉施設との連携については、施設内で急変した利用者の受け入れに関する協定を複数の施設と締結し、連携体制の強化を図りました。

⑥ 地域住民への情報発信

平成28年度から継続して実施している「志賀日赤の健康教室」を、本年度も和邇文

化ホールにて年2回開催しました。そのうち1回は社会福祉協議会志賀ブロックとの共催とし、11月には地域住民との交流の場として「健康いきいき祭り」にも参加いたしました。当院は、血圧測定や骨密度測定などのブースを職員が担当し、来場者の健康チェックを行いました。また、当院発行の広報誌『志賀日赤だより』については、地元自治会のご協力を得ながら、全戸配布を継続して実施しております。さらに、地元のまちづくり協議会が運営する「わにコミュニティバス」の運行に協力するとともに、講演会の依頼を受け、赤十字に関する講演も行いました。

⑦ 在宅医療への取り組み

訪問診療や訪問リハビリなど、在宅療養への介入を通じて、「住み慣れた自宅や地域で療養したい」という患者・ご家族の希望に応えるべく、医師・看護師・理学療法士等が連携してサービスの提供に取り組みました。件数自体は決して多くはありませんが、実施した患者やご家族からは、自立支援に向けた丁寧な対応に対し、良好な評価をいただいております。

⑧ 初期研修医教育及び学生実習

大津赤十字病院より初期研修医の地域医療実習として、1か月交替で13名の研修医を受け入れました。また、自治医科大学および滋賀医科大学の医学生による実習については、新型コロナウイルス感染症の流行以降、再開には至っておりませんが、依頼があれば今後も積極的に受け入れる方針です。看護学生の病院実習に関しては、令和6年度も引き続き、華頂看護専門学校の学生の実習を受け入れました。

⑨ 災害救護活動への参加

災害救護訓練については、第四ブロックでの災害訓練に参加したほか、新型コロナウイルス感染症の拡大以降、中止していた院内での災害時傷病者受け入れ訓練の再開を予定しておりました。しかしながら、本年度は大雪の影響により実施を見送る結果となりました。

⑩ 大津市北部僻地への医師及び看護師の派遣

大津市保険年金課が運営する大津市葛川診療所への医師派遣を、引き続き実施いたしました。毎週火曜日に医師1名、看護師1名を派遣し、医療空白地域で高齢化が進む葛川地区の住民のいのちと健康を守るため、赤十字としての使命のもと、市からの要請に応じて対応しています。令和7年度も、継続して派遣を行う予定です。

(3) 決算概要

収益的収入および支出

(単位：千円)

科 目	令和 6 年度決算額	令和 5 年度決算額	比較増減	対前年度比 (%)
病院収益	2,067,075	2,111,260	△44,185	97.9
医 業 収 益	1,768,029	1,833,527	△65,498	96.4
医 業 外 収 益	299,046	275,489	23,557	108.6
医療社会事業収益	0	0	0	－
付 帯 事 業 収 益	0	0	0	－
特 別 利 益	0	2,244	△2,244	0
病院費用	1,686,176	2,279,662	△593,486	74.0
医 業 費 用	1,654,785	2,269,608	△614,823	72.9
医 業 外 費 用	23,018	955	22,063	2410.0
医療奉仕費用	8,169	8,928	△759	91.5
付 帯 事 業 費 用	0	0	0	－
特 別 損 失	204	171	33	119.3
法 人 税 等	0	0	0	－
収支差引額	380,899	△168,402	549,301	

資本的収入および支出

(単位：千円)

収 入		支 出	
固定負債	8,056	固定資産	67,678
資産売却収入	0	借入金等償還	185
その他資本収入	59,807		
計	67,863	計	67,863

3 長浜赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職 員 数				入院患者数			外来患者数		
許可病床	実働病床	医 師	看護 師	そ の 他	計	延 人 数	一 日 平 均	一 日 対 前 年 平 均 比	延 人 数	一 日 平 均	一 日 対 前 年 平 均 比
(床)	(床)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(%)
492	455	106.5	593.4	252.2	952.1	133,312	365.2	97.8	233,021	958.9	99.9

(2) 医療施設の経営状況

・収支の推移

医業収益では、入院・外来ともに患者数が減少しましたが、10/1より急性期充実体制加算を算定したことにより、入院診療単価が増加し、医業収益は増収となりました。

対する医業費用について、材料費では診療材料費・給食用材料費などの高騰もありましたが、医薬品費の減少などで材料費全体では減少しました。給与費では、職員費が減少し、退職給付会計における決算整理の戻入による影響で20.6%減少となりました。

た。設備関係費では、器機保守料が増加しましたが、減価償却費・修繕費の減少の影響で13.8%減少となりました。委託費については、令和5年度まで増加していた新型コロナウイルス感染症対策のための寝具委託費が減少しましたが、医療事務委託費の増加で0.4%微増となりました。経費では、物価の高騰もあり18.8%の増加となりました。

医業収支は、収益が増加となり材料費などは前年度より抑えられ、また退職給付引当金の本社指示による戻入が大きく影響し、6億9千4百万円の黒字決算となりました。

医業外を含む総収支では、原子力災害補助金等の交付もあり、10億9百万円の黒字決算となりました。

・患者数と病床利用率の推移

入院患者数・外来患者数はともに対前年度比で減少となりました。

病床利用率は、令和5年度より1病棟閉鎖し、看護師の配置を見直すとともに稼働率UPをめざしましたが、80.3%にとどまりました。

・診療単価の推移

入院診療単価は、68,079円で対前年度比2,017円増加となりました。

外来診療単価は、15,433円で対前年度比97円減少となりました。

① 経営健全化の推進

地域の医療機関との連携体制を図るとともに湖北地域の中核病院として急性期医療を推進し、安心安全な医療の提供・地域住民のニーズに応えるべく、救急医療・災害救護体制等の充実を図るとともに、健全な病院経営に努めました。また、働き方改革に伴う業務等の見直しを行い、物品購入に関しては不要不急の経費節減に努めました。

1. 新入院患者数……………	10,720人	2. 平均在院日数……………	11.3日
3. 病床稼働率……………	80.3%	4. 紹介患者数……………	17,479人
5. 紹介率、逆紹介率………	67.3%、69.2%	6. 救急搬送入院率……………	40.8%
7. 手術件数……………	4,096件	8. 全身麻酔件数……………	2,220件

② 原子力災害医療の強化

基幹原子力災害拠点病院である当院は、滋賀県原子力防災訓練に救護班と訓練コントローラーとして参加しました。院内原子力防災訓練では、被ばく傷病者受け入れ、除染の訓練を実施しました。また、滋賀県下の拠点病院と協力機関を対象に対面の原子力災害医療対応基礎研修2回とeラーニング1回を実施しました。研修では防護衣の着脱や養成訓練など実施し、原子力災害医療対応の強化を図りました。対面での基礎研修を実施している病院は全国で当院だけあります。また、広島大学の協力で、簡易甲状腺測定研修と原子力災害派遣医療チーム研修をそれぞれ1回実施しました。簡易甲状腺測定研修では、今回初めて看護師と臨床検査技士を養成しました。

③ 災害救護体制の充実

令和6年度院内大規模災害訓練は、地震と豪雨との複合災害での被災想定で、傷病者と入院患者の受け入れ及び搬出・搬送調整を課題として実施しました。また、昨年度に続き電子デバイスを使用した院内災害対策本部と各エリア間の情報のやりとりを

実施しました。令和6年9月に指定された災害拠点精神科病院の機能と役割を発揮し、問題点を洗い出すため、近隣の精神科病院からの傷病者受け入れと、DPATの活動拠点本部訓練も実施しました。DMAT・DPATとも長浜保健所長を本部長とした活動拠点本部で協働し、医療圏の医療機関と福祉施設の被災状況把握と支援調整、患者搬送調整を実施する事ができました。今回は、当院181人、長浜保健所7人、滋賀県立看護専門学校生徒5人、東海学院大学生徒7人の参加者と、セフィロト病院2人、市立長浜病院2人、滋賀県1人の見学者がありました。訓練途中に浸水被害が発生する想定での対応検証もでき、問題点が洗い出しできました。

救護班要員研修Ⅰにおいては、40人の参加者があり、救護スキルの向上を図ることができました。また、滋賀県や地域・近畿ブロックの政府訓練などからの職員派遣と、各訓練に救護班・DMAT・DPATや訓練コントローラーを派遣し、災害救護体制の充実と強化を図ることができました。

④ ドクターカー事業

ドクターカー事業も3年が経過し、R6年度は、336件出動しました。彦根市の局地災害等に対応するため、彦根市消防とドクターカーに関する運用の協定を締結しました。

1分でも早く診断・治療を開始し、一人でも多くの命を救い、病気やけがによる後遺障害を少なくすることを目指し、救命医療向上に尽力しました。

令和7年度は湖西医療圏の重症外傷事案等にも対応できるように高島市消防本部と協定を締結する予定です。

(3) 施設等整備

施設整備としては、全館中央監視装置・2号館無停電装置（UPS）の更新を行いました。

機器整備としては、医療用器械備品を一部補助金を財源とし、内視鏡ホルダーロックアーム（支部繰入金）、シンチレーションサーベメータ（原子力災害拠点病院等施設設備整備補助金）、他6点を整備し、また自己資金にて超音波画像診断装置・採血静注シュミレーターなど全51点を整備しました。

その他器械備品としては、複合機など全26点を整備しました。

車両としては、老朽化した訪問看護車両1台の更新を整備しました。

無形固定資産のソフトウェアは、就業管理システムの更新などを行いました。

(4) 決算概要

収益的収入および支出

(単位：千円)

科 目	令和 6 年度決算額	令和 5 年度決算額	比較増減	対前年度比 (%)
病院収益	13,612,494	14,379,239	△ 766,745	94.7
医 業 収 益	13,077,895	13,043,880	34,015	100.3
医 業 外 収 益	438,038	1,243,139	△ 805,101	35.2
医療社会事業収益	4,884	4,459	425	109.5
付 帯 事 業 収 益	91,677	87,761	3,916	104.5
特 別 利 益	0	0	0	—
病院費用	12,603,124	14,439,570	△ 1,836,446	87.3
医 業 費 用	12,382,908	14,131,830	△ 1,748,922	87.6
医 業 外 費 用	16,500	15,504	996	106.4
医療奉仕費用	124,346	184,528	△ 60,182	67.4
付 帯 事 業 費 用	77,392	107,415	△ 30,023	72.0
特 別 損 失	1,978	293	1,685	675.1
法 人 税 等	0	0	0	—
収支差引額	1,009,370	△ 60,331	1,069,701	

資本的収入および支出

(単位：千円)

収 入		支 出	
固定負債	37,000	固定資産	424,063
資産売却収入	0	借入金等償還	216,444
その他資本収入	603,507		
計	640,507	計	640,507

Ⅲ 血 液 事 業 概 要

滋賀県赤十字血液センター

血液製剤の均質性・安全性の向上と安定供給の促進及び事業効率の改善を通じた健全な経営基盤の構築を目的として広域血液事業運営体制が導入され、近畿ブロック血液センターの令和6年度事業方針に基づき事業を遂行しました。

特に、将来にわたって安定供給を維持していくためには、10代、20代、30代の若年層献血者数を増加させていく必要があります。若年層からの献血への理解を得るために、同世代の学生献血推進協議会や各種学生団体と最大限に連携し、初回献血者、複数回献血者数の確保を積極的に行いました。

医療機関から発注される赤血球製剤の95%以上が400mL製剤であることから、400mL献血を推進した結果、全血献血に占める400mL献血の比率は96.9%となりました。あわせて、稼働数の増加は採血本数の増加に直結し財政基盤の安定化に不可欠であることから、前年度に引き続き高い水準での稼働数維持を目指した結果、移動採血の稼働数は737稼働となり、前年度の738稼働とほぼ同数になりました。

本年度の献血者数は53,298人、前年度比97.9%となりました。輸血用血液製剤の供給数は166,763単位で前年度に比べ95.3%となりました。

滋賀県は全血採血に優位な採血環境であり、全血献血については県内需要を上回る採血を行いました。また、成分採血における自給率は低いものの、分割血小板採血の増加等により、県内医療機関には安定的に輸血用血液製剤を供給しました。

(1) 献血及び供給状況の推移

年 度	献 血 状 況		供 給 状 況	
	献血者数（人）	対前年度比（％）	供給数（単位）	対前年度比（％）
令和2年度	53,176	106.2	160,979	91.8
令和3年度	51,368	96.6	171,170	106.3
令和4年度	53,164	103.5	163,576	95.6
令和5年度	54,421	102.4	174,991	107.0
令和6年度	53,298	97.9	166,763	95.3

(2) 令和6年度採血の実績

献血者数

	計画（人）	実績（人）	達成率（％）	対前年度比（％）
200mL献血	697	1,361	195.3	104.4
400mL献血	42,492	42,526	100.1	98.9
血漿献血	4,957	4,576	92.3	87.3
血小板献血	4,689	4,835	103.1	98.9
計	52,835	53,298	100.9	97.9

※400比（全血献血に占める400mL献血の比率） 96.9%（令和5年度：97.1%）

(3) 令和6年度供給の実績

供給（県内医療機関への供給単位数）

	計画（単位）	実績（単位）	達成率（％）	対前年度比（％）
全血製剤	0	0	－	－
赤血球製剤	63,800	64,967	101.8	95.5
血漿製剤	16,720	18,331	109.6	97.5
血小板製剤	85,040	83,465	98.1	94.6
計	165,560	166,763	100.7	95.3

※血液製剤は、200mL相当を1単位とした換算数である。

(4) 滋賀県における献血／供給比率

赤血球製剤

年 度	献血（単位）	供給（単位）	献血／供給（％）
令和2年度	81,120	59,843	135.6
令和3年度	78,401	64,270	122.0
令和4年度	83,886	64,090	130.9
令和5年度	87,270	67,994	128.3
令和6年度	86,413	64,967	133.0

血小板製剤

年 度	献血（本）	供給（本）	献血／供給（％）
令和2年度	4,958	8,340	59.4
令和3年度	4,930	8,684	56.8
令和4年度	4,807	8,148	59.0
令和5年度	4,890	8,793	55.6
令和6年度	4,835	8,304	58.2

※平成26年度より血小板高単位献血（20単位）からの分割製剤（10単位2本）施行

(5) 献血推進の取組み

① 愛の血液助け合い運動

7月1日から31日まで、国・県・日本赤十字社の主催により、多数の後援団体、協賛団体の協力を得て全国一斉に行われました。当県では例年「献血功労者表彰式」を開催しており、令和6年度は7月30日にピアザ淡海ピアザホールにて開催しました。

② 全国学生献血キャンペーン

滋賀県学生献血推進協議会が7月に「学生サマー献血キャンペーン」をJR近江八幡駅において、12月に「全国学生クリスマス献血キャンペーン」を石山商店街およびJR近江八幡駅においてそれぞれ開催しました。血液が不足する時期でのキャンペーンは効果的であり、大学生たちが同年代の若者に献血への理解と協力を呼びかけました。

③ はたちの献血キャンペーン

1月1日から2月28日まで、(社)日本民間放送連盟・(社)日本民営鉄道協会・(社)日本コミュニティ放送協会の後援を得て実施しました。本年度は「ぼくらの持っているもの」篇と題したテレビCMやラジオCM・WebCMを作成し、献血啓発活動に取り組みました。

滋賀県赤十字血液センターは、期間中にご協力いただいた方へオリジナルカレンダーやスマホホルダーをプレゼントするなど若年層を中心とした献血の推進に努めました。

④ 若年層対策事業

＜献血セミナーの強化＞

高校生に対する献血推進を重点的に進めるため、高校生を対象とした献血セミナーを19回実施しました（令和5年度は26回）。従来型の一方向的なセミナーではなく、献血に関するスピーチを学生に考えてもらうような双方向セミナーも実施しました。

また、滋賀県赤十字血液センターは若年層確保対策事業として、滋賀県と協働した取り組みを行っています。

＜キャンペーンの実施＞

計3回、学生を対象としたキャンペーンを実施しました。

- 期 間：7月～8月
対 象：学生（先着350人）
記念品：モバイルバッテリー
主 催：滋賀県
- 期 間：9月～11月
対 象：学生（先着2,000人）
記念品：モバイルバッテリー
主 催：血液センター
- 期 間：12月～3月
対 象：高校生（先着1,000人）
記念品：モバイルバッテリー
主 催：滋賀県